

旭川開催の歌留多大会報道記事

戦 後 編

昭和 23 年 1 月 12 日～昭和 42 年 1 月 7 日

昭和23年1月12日 北海日日新聞

榮冠は何處へ 热戦續けるカルタ大会

“久かたの光のどけき”と朗々と民主化春の日に復活した全道歌留多大会は10日午後8時から旭川大休寺で開かれた。全道各地から集まつた96組の腕に自信をもつ選手たちが眼と耳と手の熱戦を繰広げ午前1時には96組の中32組が勝ち残り賞金1万円の争奪戦が夜を徹してつづけられた

昭和23年1月14日 北海日日新聞

優勝は奈井江チーム 全道カルタ大会

曙カルタ会主催本社後援の全道カルタ会は10日午後4時から12日午前4時まで大休寺で熱戦が続けられたが榮かんは奈井江村が優勝した。入賞チーム次の通り

①奈井江 ②札幌革新 ③深川北陽 ④旭川赤翼A ⑤遠軽鉄血 ⑥三井砂川

昭和24年1月18日 北海日日新聞

赤翼A組が優勝 16日のカルタ大会

旭川カルタクラブでは16日午前10時から市役所楼上で35チームによる市内各クラブ対抗のカルタ大会を開いたが、成績次の通り

①赤翼A（山本、上居、高崎） ②赤翼B（平間、笹森、田中） ③ダイヤ ④北都

昭和24年3月2日 北海日日新聞

全道カルタ大会

旭川赤翼カルタクラブ主催第7回全道下の句カルタ選手権大会は、今年も納會を兼ねて5日午後7時から市内慶誠寺で開く、参加チームは地元10数チームのほか札幌3チーム稚内2チームなど全道から優秀メンバー約60チームが参加全道一の榮冠を競う。なお当日は旭川放送局ローカル放送中継が行われる。

昭和25年1月11日 北海日日新聞

第2回市長杯争奪職域対抗カルタ会

第2回市長杯争奪職域対抗カルタ大会は21日午後1時から市役所楼上で行われる。出場資格は市内各会社、官庁、工場、商店を問わず職域人であれば男女関係なく、一職場3チーム以内となっている。申し込みは、申込金1チーム300円をそえ19日までに市体育係へ申込めばよい

昭和25年1月24日 北海日日新聞

パルプB組が一位 職域対抗カルタ大会

市長杯争奪第3回職域対抗カルタ大会は48チーム参加、21日午後1時から市役所で開かれたが、戦績次の通り ①パルプB ②東亜土建 ③配電 ④工機部 ⑤電通 ⑥パルプA ⑦シグナルまたパルプBと旭一C両チームに優秀チーム賞、日通皆川千代美君旭川保線区川田清一君に読手賞が授与された。

昭和26年1月21日 北海日日新聞

27,28日に市長杯争奪かるた大会

道かるた連盟旭川支部、旭川市共催の第4回市長杯争奪職域対抗かるた大会は27,28の両日市役所大廣間で行われる。参加資格は市内の会社、工場、商店の職場人で1チーム3人一組で職域から3チームまで、出場希望者は300円をそえ25日までに市教育体育係まで申込むこと

昭和26年1月27日 北海日日新聞

出場チーム組合せ決る きょう職場対抗かるた

第4回市長杯争奪職場対抗下の句かるた大会は今日27日午後6時から市役所大廣間で開かれるが、出場チーム41チームの組み合せが26日の主將会議で別項の通り決定した。なお優勝候補と目されるものは吉川A、パルプA、B、洋服組合、市役所A、貯支A、ダイヤ、三笠などである。

昭和26年1月28日 北海日日新聞

熱戦の火蓋切る 市長杯争奪かるた大会

第4回市長杯争奪職場対抗下の句かるた大会は、27日午後6時から市役所櫻上に41チームの精銳が参加して舉行、各職場の代表者ばかりの出場だけに終始熱戦を展開1枚とるごとに1,000人近い見物衆から歓声が上がった。なお大会は夜を徹して續けられ、結果判明は28日午前5時ころになる予定。

昭和26年1月30日 北海日日新聞
ダイヤチーム勝つ 職場対抗かるた大會

第4回市長杯争奪職場対抗かるた大會は27日午後6時から28日午前5時頃まで続けられたが熱戦の結果ダイヤチームが優勝した。成績次の通り

①ダイヤ（機関區区）②藤井製菓 ③パルプB ④電通C ⑤三笠（北日）⑥パルプ

昭和27年1月19日 北海日日新聞
新年娛樂大会も

旭鉄旭川工場では17日から20日まで全職員による新年娛樂大會を開いている。19日カルタ大會（33チーム出場）20日マージャン大會（25卓100人参加）毎日午後5時から工場クラブで開かれる

昭和27年1月24日 北海日日新聞
『市長杯』の争奪 2、3日職場対抗かるた

第6回市長杯争奪職域対抗かるたクラブ主催で2,3の両日市役所大廣間並びに市公民館で行われる。参加資格は市内所在の会社、工場、商店などの職域人で編成されたチームで、1職域は3チーム以内となっている参加希望者は31日まで参加料300円を添えて市教委体育課まで申し込むこと

昭和27年2月3日 北海日日新聞
深更まで大熱戦 市長杯争奪かるた大会

第6回市長杯争奪職域対抗かるた大會は、市内の精銳33チーム参加、2日午後2時から市役所大廣間で開かれ深更まで熱戦を展開した。一次戦績次の通り△パルプC-×工機部A△北日A-×拓銀B△技工組合B-×日通B△富島A-×竹内木材A△電通A-×市役所A△パルプB-×竹内木材B△パルプA-×日通A△電通B-×ダイヤA△シグナーレ×中井製菓△市役所B-×動輪△共同作業-×土建組合△北日C-×洋服組合△市役所C-×拓銀A

昭和27年2月10日 北海日日新聞
青少年かるた大会 ○きょう公民館で

市レクリエーション協会、少年愛好會共催の全市青少年かるた大會（20歳以下）は10日午前9時から公民館で開く、参加26チーム

昭和28年1月11日 北海道新聞
腕によりかけて 職場カルタ大会

カルタを前にハチ巻き姿の青年が下の句を聞く間もなく体を乗出して床をたたき、小躍りする威勢のいい風景が見られた。これは10日午前10時から旭川電話局で開かれた電気通信部、電報部、電話局三者対抗の新春カルタ大会の一コマ、腕に自信のある女子も交えた職場の選手11チーム33名がこのときとばかりと日ごろの実力を発揮し、上衣を脱ぎ捨てて熱戦を繰り広げれば、応援にかけつけた同僚らがこれを取り巻きガンバレ・ガンバレと声援を送っていた

昭和28年1月11日 北海日日新聞
新春かるた大会開く 全電通支部

全電通旭川支部主催、旭川通信部後援の“新春かるた大会”は10日午前10時から電報局、電話局、通信部から各AB2組が出場して電話局で開かれ午後4時まで6時間にわたり『霧立ちのぼる秋の夕ぐれ』などと流れるような読み手の声の中に接戦がつづけられ、結局電話局A組が第1位、第2位は電報局A組、第3位同B組となり幕をとじた。

昭和28年1月13日 北海道新聞
31日に華々しく 職域対抗カルタ大会

第7回市長杯争奪職域対抗カルタ大会は、市、公民館、旭川レクリエーション協会、カルタクラブ共催で31日午後1時から2月1日にかけて公民館で行われる。なお主將會議は20日午後1時から開かれ組合せを決める。参加資格は市内の会社、工場、商店、官公署勤務者、1組3名で1職場3チームを限度とする。希望者は、参加料300円を添え30日までに公民館事務所へ。

昭和28年1月29日 北海日日新聞
一日に職域対抗カルタ大会

第7回市長杯争奪職域対抗かるた大会は31日午後4時から2月1日にかけて公民館第3、5号室で開かれる。主將會議は30日午後1時同3号室で開き組合せその他を決定するが申し込みは30日正午限り公民館事務室まで。同一職域人3人1組で1職域最高3チーム、参加料1チーム300円（申込と同時に払込み）

昭和28年1月31日 北海道新聞

市長杯争奪カルタ大会の出場チーム決る

第7回市長杯争奪職場対抗カルタ大会は31日午後5時から公民館で次の40チームが参加して行われる。市役所A, B, C, 技工師組合, 成久光機, 電通A. B, 昭和電工, 土建組合, 北日A, B, パルプA. B. C, 貯金局A. B. C, 川井組, 中井製函A, B, 松岡木材, 露店組合, 洋服組合, 富士鉄工場, 塗装組合, 道新A. B, 富島組A, B, 福井製菓, 法務局, 浅川組, 海原組, 社会保険, ダイヤ, 理容組合白雪石鹼

昭和28年2月2日 北海日日新聞

土建チームに凱歌

かるた大会 市長杯を獲得

第7回市長杯争奪職場対抗かるた大会は31日午後5時から市公民館で精鋭40チームが参加して開かれたが、オラガ職場の代表を応援しようと詰めかけた観衆の声援に一戦々々を争う熱戦展開、深更に至って部屋の隅々でウタタ寝する者など“かるた”ならではの風景を描き出し、結局昨年の覇者パルプチームを破った土現チームが上がり第7回市長杯を獲得、1日午前10時熱戦を閉じた成績次の通り ①土建組 ②パルプA組 ③パルプB組 ④ダイヤ組 ⑤工機部A組 ⑥電通B組 ⑦福井製函組 ⑧露店組 読手賞高橋良希

昭和28年2月6日 北海道新聞

八日に子供カルタ大会

市レクリエーション協会主催の第2回子供カルタ大会は8日午前9時から公民館5号室で行われる。出場資格者は満18歳未満の男女で3人1組、主将会議は7日午後2時から同館で行われる。なお申込み締切日は6日、申込料1チーム100円

昭和28年2月8日 北海道新聞

子供カルタ大会の出場チーム決る

旭川レクリエーション協会、旭川愛友会共催で8日午前9時から公民館で行われる第2回子供カルタ大会(百人一首)は女子ばかりの聖園チームはじめ26チームとなった。出場チーム次の通り 聖園、乙女、北星、旭衣、オール大町、旭籠ク、旭西、轟、鬼組、北都A、同B、同C、スワローズ、旭星、光中組、オーシャン、白金ク、少年北洋ク、春光オリオン、二条ク、さくら、大雪、宮下18会、若松、鉄腕、有明

昭和28年2月9日 北海道新聞

プロ級ぞろい 子供カルタ大会

第2回旭川市子供カルタ大会は8日午前11時から旭川公民館で25チームが参加して行われた。子供といつても18歳未満だがプロ級の腕自慢ぞろい。万葉調の読手の声が流れるとき場内も静まり寒さもつんざく気合だけがそこそこから聞こえ4ブロックにわかれのトーナメント戦は午後9時まで続けていた。

昭和29年2月7日 北海日日新聞

ねじり鉢巻、腕まくり

夜を徹して市長杯カルタ大会 50チームが火花散らす

第8回市長杯争奪職場対抗カルタ大会は6日午後5時から市公民館でギッシリつめかけた応援団に囲まれながら50チームが参加して熱戦がくりひろげられた。この日、前回の覇者土建組合から市長杯の返還があったのちトーナメントによる、第1戦が展開され優勝候補の土建組合、工機部A、パルプA組、それにダークホース保安隊チームなどがねじり鉢巻に腕まくりして接戦を行ったが1枚ごとにワーッとあがる歓声に熱戦の火花を散らし7日朝まで続けられた。なお晴れの優勝が決定するのは7日正午ころの予定

昭和28年2月8日 北海日日新聞

土建組合が優勝 市長杯カルタ

昨報、参加50チームが6日午後5時から市公民館で夜を徹しての熱戦を展開した第8回市長杯争奪職場対抗カルタ大会は7日正午に至り予想通り土建組合が工機部Cを札7枚の差で破り2連覇、市長杯を握った①土建組合(増田、高橋、松本) ②工機部C ③パルプA ④旭鉄B ⑤電通A ⑥工機部D ⑦塗装組合 ⑧技工師組合

昭和29年3月1日 北海日日新聞
真剣に動く目と手 热戦の全市少年カルタ大会

旭川レクリエーション協会主催の第3回全市少年カルタ大会は28日午前9時から旭川クラブに60名の少年が参集して開かれ、相も変わぬ熱戦が展開したが次の通り入賞が決定した。

①黒龍チーム(代表高橋俊雄、工業高校) ②ツバメチーム(小野寺恒蔵、商業高校) ③大雪チーム(今野勇、永山農高) 敢闘賞佐藤英司(東校定時) 技能賞井上隆夫(北都中学)

七日に市民カルタ大会

旭川レクリエーション協会主催第3回市民一流、二流カルタ大会は7日午前8時から慶誠寺(5の6)で開催する。会費はいずれも300円で6日午後6時まで公民館に申込むこと

昭和29年3月1日 北海道新聞

热戦の少年カルタ大会

旭川レクリエーション協会主催の第3回全市少年カルタ大会は28日午前9時半から2条8丁目の旭川クラブに中、高校生60名20チームが参加して開かれ団体1位は旭工代表の黒龍(高橋俊雄、中西誠一、五味川英雄)が優勝、以下2位は旭商校のツバメ、3位永農と大雪の2チームでまた技能賞は、井上隆夫(北都中)敢闘賞は佐藤英司(定東校)君らがそれぞれ獲得した。

昭和30年1月8日 北海日日新聞

全市少年少女カルタ大会

旭川レクリエーション協会、愛友会、市公民館共催、本社及び旭川カルタクラブ後援の第4回全市少年少女カルタ大会は14、15の2日間2条8丁目右1旭川クラブで開催する。参加チームの資格は満18歳未満の男女で学校在籍者に限る、競技方法は小、中校、高校の2部で男女別に分けトーナメント。参加料無料。なお参加希望者は所定の申込み用紙が市公民館に備え付けであるから10日までに同所に申し込みのこと。

昭和30年1月10日 北海日日新聞

カルタに興ず

仏教精神を通じて親睦を図ろうという旭川仏教青年会の今年度発会式は、9日午前11時から市内慶誠寺に会員約50名が集まって行われた。式はまず山崎与吉会長のあいさつ、役員の選任、賛仏歌の合唱指導があつて会員の紹介に移った。会員は高校生から40代までだったがみんな若さを満面にみなぎらせていた。式がおわってカルタ会に移り男女会員が混じってそれぞれのお手なみを披露、和気あいあいのうちに午後4時散会した。

昭和30年1月14日 北海道新聞

全市少年少女カルタ大会組合せ決る

旭川レクリエーション協会と公民館共催の第4回少年少女カルタ大会は15日午前9時から市内2の8旭川クラブ(亀屋階上)で高校生チーム4、小、中学生チーム8計12チーム36名が参加次の組合せで行われる(省略)

昭和30年1月16日 北海道新聞

大人顔負けの腕前 少年カルタ大会

小学校5年生を最年少にイガクリ頭をつき合せての第4回全市少年カルタ大会が15日午前10時半から市内2の8旭川クラブで行われた。高校8チーム、小、中学校9チームが参加、中堅、ツキ、守備の3人1組で読み手の美声が下の句にかかると床をたたき、小躍りする気合の入り方、大人顔負けの腕前をみせて熱戦は午後4時過ぎまで続けられた。

昭和30年1月16日 北海日日新聞

市長杯争奪カルタ大会の組合せ決る

第9回市長杯争奪職域対抗カルタ大会は16日午前8時から公民館で開かれるが、それに先立って14日午後1時から同館で主将会議を開き下の通り組合せを決定した。(トーナメント表省略)

全市少年少女カルタ大会の入賞者

第4回全市少年少女カルタ大会は公民館、愛友会主催、本社後援のもと15日2の8亀屋2階旭川クラブで15チームが参加して催され、次のとおり入賞が決定した。

△小、中の部 ①石狩 ②剣龍 ③○○ 敢闘賞 森弘美 技能賞 永山裕 殊勲賞 阿保義美

△高校の部 ①黒龍 ②大雪 ③氏家 敢闘賞 井上隆夫 技能賞 荒川栄二 殊勲賞 勝海武夫

△特別賞岩波寛

昭和30年1月17日 北海道新聞

入神?の技を競う 市長杯争奪カルタ大会

市、旭川レクリエーション協会主催の市長杯争奪カルタ大会は16日午前9時半から市公民館を会場に市内の職域団体代表40チームが参加して開かれた。試合は4ブロックにわかれトーナメント形式。選手は流石に男子ばかりで、りりしいハチ巻姿に双はだぬきの勇ましいチームもあり会場一杯に流れる読手の声に眼にも止まらぬ入神(?)の技を競い合い夜10時過ぎまで熱戦を続けた。

昭和30年3月7日 北海日日新聞

下の句、木札に興深げ 高松宮歓迎カルタ大会

旭川レクリエーション協会では6日午後7時からニュー北海ホテルで高松宮様歓迎カルタ大会を開いた。この日北洋、国鉄、市など8チームが参加、春近い季節はずれの印象もあったが宮様の観戦をいただくとあって各選手大いに張り切り熱戦を展開、また宮様も北海道独特の下の句読み取りに木札というカルタ取り風景を興深げに御覧になられた。

昭和31年1月14日 北海日日新聞

少年少女カルタ大会組合せ決る

市中央公民館と旭川R協会共催の第5回少年少女カルタ大会は14日午前9時から同館で開かれるが、次の通り組合せが決定した。（組み合わせ表省略）

昭和31年1月15日 北海道新聞

大人も顔負け鮮やかな手並み 少年少女カルタ大会

第5回少年少女カルタ大会（百人一首下の句）は14日午前9時から公民館2号室で行われ、参加チームははじめて出場の女子だけで編成の朝日チームを加えて小、中学校の部が10チーム、高校は5チーム。『中堅ツッキー守備』と3人1組での対戦だが、観戦中の一般市民が舌をまくような鮮かな手並み、木札が威勢よくハネあげられるあたりは文字通り大人顔負けのワザ。4時ころまでつづけられた熱戦の末順位がつぎのように決った。

△高校 ①北星（対馬、田中、田苗） ②宮下十八丁目（高木、宮本、井上）

△小中学校の部 ①光陽（寺沢、森、谷） ②石狩（宮野、田中、中島） ③牛別（中村、原、長島）

△最優秀賞長島勉（牛別） △技能賞長島悌二（黒龍） 井上克己（宮下十八）

△敢闘賞池田明子（朝日） 井上隆夫（宮下十八） △特別敢闘賞宮野勝（北星） 対馬勇（光陽）

昭和31年1月15日 北海タイムス

勝った！北星チーム 新春にヨイ子のカルタ大会

市公民館主催第5回新春少年少女カルタ大会は、14日午前9時から同館第3号室で高校の部5チーム小中学校の部10チームが参加して盛大に行われた。会場には応援の父兄を交えて、女子だけの朝日チーム兄弟だけの家庭チームなどが日頃の腕に物いわせての熱戦を展開したが団体で次の5チームが入賞したほか7人に個人賞が贈られた。

◇高校の部 ①北星チーム（対馬、田中、田苗） ②宮下十八チーム（橋本、宮本、井上）

◇小中学校の部 ①光陽チーム（寺沢、森、谷） ②石狩（宮野、田中、中島） ③牛別（中村、原、長島）

◇最高優秀賞 長島勲 ◇技能賞 長島悌二、井上克己 ◇敢闘賞 池田明子、井上隆夫

◇特別敢闘賞 宮野勝、津島勇

昭和31年1月22日 北海道新聞

市長杯争奪カルタ大会組合せ

（トーナメント表省略）

第10回市長杯争奪カルタ大会は22日午前9時から30チームが参加国策パルプ体育館で行われるが21日の代表者会議で組合せが次の通り決まった、なお決勝はA Bの勝者にて行う。

昭和31年1月22日 北海タイムス

職域対抗カルタ大会組合せ決る

（トーナメント表省略）

市、公民館、旭川R協会、旭川カルタ俱楽部共催の第10回市長杯争奪職域対抗カルタ大会は、22日午後9時から開かれるが、21日午前9時から行われた主将会議の結果次の通り組合せがきまった。

昭和31年1月23日 北海道新聞

ねじり鉢巻腕まくり 正月再楽のカルタ大会

市長杯争奪第10回市民カルタ大会は22日のどかな日曜日午前9時から国策パルプ体育館で開かれた。この日自慢の腕で優勝杯をさらおうと集まったチームは30を数え頭にねじり鉢巻きをするやら、腕まくりで気勢をあげるやらで、まさにケン騒。応援にはせつけた職場のおえら方や乙女たちもまじって20日正月を呼び起こした楽しい1日だった。

昭和31年1月23日 北海日日新聞

電光石火木札の乱舞 対抗カルタ大会、パルプA優勝

市、公民館、旭川R協会、旭川カルタ俱楽部共催の第10回市長杯争奪カルタ大会は、午前9時から国策パルプ体育館で開かれた。この日各職場選り抜きの名手90余名が体育館の床も折れよとばかりの熱戦、読手の声が広い会場の隅々までしみ通る緊張した一瞬鋭い掛け声と共に手と手が電光の速さで伸び大音響は高い天井に木靈して揺らぐばかりだ。試合が進むにつれて各チームともねじり鉢巻きもじつとり汗ばみ、木札の乱舞は深更まで続けられた。入賞次の通り

①パルプAチーム(山本、丸毛、白田) ②国鉄工場(山谷、堀井、奥山) ③ダイヤ ④洋服組合

昭和31年2月21日 北海日日新聞

旭一杯争奪カルタ大会成績

旭一杯争奪カルタ大会は十八日同会議室で開かれたが、成績次の通り ◇団体①青果チーム
②鮭魚鱗光チーム③旭一チーム ◇個人①中川勇②及川泰尚③有沢益一④中川藤子⑤尾形定雄

昭和32年1月1日 北海道新聞

1月のこよみ △十三日 少年カルタ大会（旭川）

昭和32年1月6日 北海道新聞

休みを終日たのしく

お正月といつても一面雪野原に閉ざされスキーの他遊び場もない農家の子供達に、少しでも楽しいお正月をと神居小学校では、七日郊外班の楽しみ会を開いてカルタ、トランプ、羽根つき、幻燈会とお正月の遊びを終日遊んだ。この日を楽しみに待っていた子供達は一里も二里もの雪道を早朝からつめかけ、上級生は百人一首、下級生は絵カルタ、トランプ、スゴロクと夫々持ち寄って大変なにぎわい。先生もカルタの読み手を買って出て子供と一緒にになっての張り切りよう。負け組は歌や芸の罰則で珍芸も飛出し、笑いの内に心ゆくまでお正月の最後を味わった。

昭和32年1月8日 北海日日新聞

職域カルタ大会

【神楽】町役場職域カルタ大会は12日午後2時から役場会議室で開く。参加4チーム

昭和32年1月10日 北海タイムス

おエラ方もカミシモ脱いで 恒例の電報局新春カルタ大会

恒例の旭川電報局新春カルタ大会が9日午前9時から同局に局員約50名が集まって開かれた。“天の原ふりさけみれば・”流れるようによみ上げられる美しい声に男女各組にわかつた局員達は、この日ばかりは日頃いかめしい課長さん達も終日大はしゃぎ。結局1位鈴谷、2位小川、3位黒田、4位新井、5位大沢の各組が入賞したが新春にふさわしい和やかな雰囲気で楽しそうだった。

昭和32年1月14日 北海タイムス

日頃の腕を發揮 少年少女カルタ大会

“あらざらんこの世のほかの思い出に・・”朗々とヨミ声が流れて会場は水を打ったような静かさ、緊張の空気がグッと高まって今度は威勢のヨイ取声、タタミ叩き。これは13日午前10時から中央公民館で開かれた少年少女カルタ大会の一コマ。我こそはと集まつた者は小中学の部9組高校の部4組、いずれも研磨した日ごろの腕を發揮、大人も舌を巻くような早取り、元気一杯の掛け声に終日小倉百人一首を競いあった。成績次の通り ◇高校①旭補チーム②夢チーム ◇小、中学①光陽チーム②15チーム③旭昭チーム ◇佐々木賞 野口輝男(常盤中) ◇松浦賞 田口英和(光陽1年) ◇公民館長賞吉川幸男(東校1年) ◇市長賞 旭補チーム ◇旭川R会長賞光陽チーム

昭和32年1月14日 北海道新聞

職業補導所と光陽中が優勝 少年カルタ大会

松の内も過ぎ正月気分も遠のいてきたが、最近冬の室内遊戯として盛んになってきた、カルタ取りの市内少年大会が13日午前9時から旭川市公民館で旭川レクリエーション協会の主催で開かれた。参加したのは、市内小中、高校生のカルタ愛好者48名学校や町内ごとに3名が1チームを編成し、小中生11チームは勝抜き戦、高校生5チームはリーグ戦を行って順位を競ったがどのチームも何ヵ月も前から練習していただけあってベテランぞろい。“みかさのやまに・”と読み手が百人一首の下の句を読み切らぬうちに元気のよいかけ声とともに少年たちの手が木のカルタのうえを乱れ飛んでいた。大会は午後四時過ぎまで行われつぎのとおり市長賞、大会長賞などの入賞チームが決まったが、入賞しないチームもみんな参加賞をもらって明るい笑顔をみせていた。

【高校の部】①旭川職業補導所チーム(市長賞)②東校1年 “夢”チーム

【小、中校の部】①光陽チーム(大会長賞)②一条五丁目チーム③日章チーム

昭和32年1月15日 北海タイムス

団体職補が優勝 少年カルタ会開く

旭川中央公民館旭川レクリエーション協会共催、本社など後援の少年カルタ大会は、13日午前10時から公民館で開き、少年カルタチーム15組が参加して1日の楽しいレクリエーションを行った。入賞チームは次の通りで、本社メダルは旭川職業補導所チーム、バッジは光陽中学校チームらが獲得した。△高校 1位旭補チーム(本社、市長賞) 2位夢チーム △小中学 1位光陽中チーム(本社、旭川レクリエーション協会長賞) 2位15町内チーム 3位旭昭チーム △個人賞 常盤中2年野口輝男(佐々木代議士賞) 光陽中1年田口英和(松浦代議士賞) 東校1年吉川幸男(公民館長賞)

昭和32年1月21日 北海タイムス

市長杯は国鉄工場 ネジリ鉢巻でカルタ大会

市、中央公民館、レクリエーション協会、旭川カルタ俱楽部共催の第11回市長杯争奪職域対抗カルタ大会が20日午前9時から市役所二階大広間で開かれた。この日37チーム、111名という各職域代表は、今年こそ市長杯を獲得せんものと威勢のよいネジリ鉢巻姿で終日はげしくわたり合ったが、一方大広間一杯にひびきわたるのどかな読手の声はこの緊張を和らげ、例年ながらなごやかな雰囲気のうちに深更無事終了した。成績次の通り

①国鉄旭川工場A(山谷、堀井、奥山) ②国策パルプA(山本、白田、丸毛) ③土建A(高橋、上田、藤森) ④国策パルプB(長野、橋本、細木)

昭和32年1月21日 北海道新聞

『静』『動』二つの勝負 大寒よそに日曜楽しむ

◇カルタ”廿日正月”最後のお正月気分を楽しむ市長杯争奪市内職域対抗のカルタ大会が市役所2階大広間で行われた。大会には前年優勝したパルプA組をはじめプロ級のメンバーを揃えた市内各職域団体36チーム約100名の選手が参加、9会場に分かれて朝から熱戦を展開したが、いずれもカルタとりのベテラン揃いとあって読み手の声がかかった瞬間電光石火の早業をみせ、1枚ごとに火の出るような戦いぶり。なかにはブトウ酒持込みで、夜の10時過ぎまで元気のいいカルタとり風景を見せた。

昭和32年2月18日 北海タイムス

元気一ぱい、さあ勝負 市民カルタ大会

旭川レクリエーション協会、旭川カルタクラブ共催、中央公民館後援の第5回市民カルタ大会は17日午前9時から隣保会館で開かれた。参加は18チーム、市民であれば自由というワクなしだったがさすがに女と老人は少なく、磨きのかかったような若者ばかり。読み手の張りのある透る声が会場に静寂の瞬間をつくると同時に取り手の俊敏な動作がそれを破るというカルタ大会独特の雰囲気が繰り上げられ盛会だった。

昭和32年2月18日 北海道新聞

正月逆戻り 旭川市民カルタ大会

雪解けの逃げ水にも日1日春近きを感じるようになってきたが旧暦でいえばまだ正月。この旧暦の正月にちなんで旭川レクリエーション協会主催の第5回旭川市民カルタ大会が17日午前10時から市内隣保会館で開かれ、18チーム(3人1組)が参加、夜おそくまで熱戦を展開した。ハチ巻に腕まくりと勇ましいイデタチの選手たちは『ただありあけの月ぞ残れる』と流れる読み手の声につれ『ハイきたー』と威勢のよい掛け声とともにフダを飛ばし、会場狭しの活躍。正月が逆戻りしたような空気を会場一ぱい漂わしていた。

昭和32年2月19日 北海タイムス

一流雲隠れ組 旭川市民カルタ大会

旭川レクリエーション協会、旭川カルタ同好会共催、本社後援の第5回市民カルタ大会は、17日午前9時から市内6の3隣保会館に一流、二流、各9チームが参加、勝抜戦を行い、夜11時まで熱戦を闘わした結果一流チームは上居殖、坂上嗣、山本実氏の雲隠れチーム、二流は長野義雄、佐々木幸一、竹重守雄氏のパルプB組が優勝、本社賞を獲得した。各流3位までの入賞次の通り。

△一流①雲隠れチーム(上居、坂上、山本)②パルプA組(白田、佐伯、丸毛)③内山組(内山、山谷、滝田) △二流①パルプB組(長野、佐々木、竹重)②豊島組(豊島、佐橋、大倉)③寺門組(寺門、坂谷、菅野)

昭和32年3月17日 北海日日新聞

殿下は気合にほれぼれ 高松宮杯カルタ大会

○来道中の高松宮殿下を迎えての旭川市、市レクリエーション協会、市カルタ協会主催の高松宮杯カルタ大会は16日午後7時から花月本店と大和屋旅館の2カ所で開かれた。全道から腕に覚えのあるカルタマン50チームが参加、花やかに幕開けしたが威勢のいい板カルタは北海道でなければ見られない風景とあって殿下もことのほかのご満悦、花月で全道からえり抜きの醍醐味をお味合いになった。

昭和33年1月4日 北海タイムス

賑やかに“かるた大会”

青少年保護育成春光地区協議会の大和荘こども会では3日午後1時から大和荘で「新年よい子の集い」を開き、ことしの活動方針を話合ったあと楽しいかるた大会を開いた。同子供会には小学生104名が会員となっていて、青少年保護育成春光協議会の指導で子供達と地域住民が一体となり、みんなが楽しい生活を築くための努力を続けているだけに元気なかるた大会に明るい笑い声が響き、楽しいお正月風景を見せていた。

昭和33年1月10日 北海道新聞

市長杯争奪と少年少女カルタ大会

市、中央公民館、旭川レクリエーション協会、旭川カルタクラブ主催の第12回市長杯争奪職域カルタ大会が19日午前9時から旭川隣保会館で開かれる。参加資格は市内在住の官公署、会社、工場、商店その他事業団体の職域人3名で1チームを編成、参加料は1チーム300円。申込先は中央公民館事務所。また第7回少年少女カルタ大会は15日午前10時から同会館で開かれる。参加資格は、小学生から高校生まで。参加料無料、申込先は同じ。

昭和33年1月16日 北海道新聞

ハチ巻、ウデまくり 少年少女カルタ大会

中央公民館、旭川レクリエーション協会主催の第7回少年少女カルタ大会が15日、隣保会館で開かれた。集まった数10名の小、中、高校生らは腕をたくしあげネジリハチ巻も勇ましく、マットの上に並べられた木札に眼をすえ掛け声もにぎやかに熱戦を展開、みんな参加賞をもらった

昭和33年1月20日 北海道新聞

気合もすさまじく 市長杯争奪カルタ大会

中央公民館、旭川レクリエーション協会主催の第12回市長杯争奪カルタ大会が19日隣保会館で開かれた。参加チームは24、1チーム3名で72名が集まり、向こう鉢巻きも勇ましくカンと腕に自信満々の選手達は朗々と読みあげられる読み手の声に”ハーヴ”と威勢よくマットを叩いたり1枚取る度に立ち上がってデモンステレーションするものなど凄まじいカルタ戦を展開していた

昭和33年1月20日 北海タイムス

素早い秘技競う 市長杯争奪カルタ大会

市、中央公民館主催の第12回市長杯争奪職域カルタ大会は19日午前9時から隣保会館で開かれた参加団体は25チーム。それぞれ職場の名誉を担って、余韻さめやらぬ読み声にあわせ目にもとまらぬ素早い秘技を競いあった。①国鉄工機部②旭三家具A③旭川土木現業所④旭川市役所

昭和33年1月20日 北海タイムス

タイムス杯争奪 下の句かるた大会

本社は市内かるた同好者の要望に応えて、タイムス杯争奪下の句かるた大会を開催します。各職場および町内などでチームを編成のうえご参加下さい。★日時 2月1日(土)午後6時から
★会場 5の11大和神社 ★参加料1チーム(3名)300円 ★参加資格 市内在住者、男女問わず(ただし十八歳未満は不可) ★申し込みは、チーム名および氏名を明記のうえ参加料を添えて市内1条8丁目北海タイムス社旭川支社事業部へ。 ★試合方法はA、B、C級別とし、抽選によるトーナメント方式とする。なお抽選は当日午後5時会場で行う(時間厳守) ★申込み締切①1月31日午後6時まで。 ★タイムス杯はA級優勝チーム持ち回りとする。その他タイムス賞および賞状、副賞あり)

昭和33年1月28日 北海タイムス

タイムス杯争奪かるた大会の要領

本社主催、タイムス杯争奪旭川下の句かるた大会は一部を変更、次の要領にて開催します。各職場、町内チームなど同好者多数の参加を募ります。★日時 2月1日(土曜日)午後6時から

★日時 2月1日（土曜日）午後6時から ★会場 5の11大和神社 ★参加料1チーム3名300円
★参加資格 市内在住者、男女問わない（ただし十八歳未満は不可）
★申込みは、チーム名および氏名を明記のうえ参加料を添えて市内1条8丁目北海タイムス旭川支社事業部へ。 ★試合方法はA、Bの二クラスとし、抽選によるトーナメント式とする。
なお抽選は2日午後5時から会場で行う（時間厳守） ★申込み締切2月1日当日でも受け付ける
★タイムス杯はA級優勝チーム持ち回りとする。（その他タイムス賞および賞状、副賞あり）

昭和33年2月2日 北海タイムス

深更まで熱戦展開 タイムス杯争奪下の句かるた大会

タイムス社主催タイムス杯争奪旭川下の句かるた大会は1日午後7時から5の16大和神社に強豪20チームが参加、鋭い気合とともに夜遅く熱戦を続けた。

昭和33年2月27日 北海タイムス

愈よ一日に開催 全道下の句かるた大会

かるた愛好者待望の北海タイムス社盾、旭川商工会議所会頭杯、労働大臣杯、旭川市長杯争奪「高松宮様ご観覧記念第3回全道下の句かるた大会」旭川市、旭川レクリエーション協会、旭川市民館、旭川かるた連盟主催、北海タイムス後援で1日（土）午後6時から旭川市3の5民謡会館で開催される。◇申込場所 旭川市常磐公園公民館 ◇参加資格 男女問わず一流、二流チームとして1チーム3名とする ◇参加料 一流チーム750円 二流チーム600円
◇申込締切り 当日会場でも受け付ける ◇賞 賞金、副賞多数

昭和33年3月1日 北海タイムス

愈よ今夕六時から 全道下の句かるた大会

高松宮様ご観覧記念第3回全道下の句かるた大会はきょう1日午後6時から市内3の5民謡会館で開かれる。参加料は一流チーム750円 二流チーム600円、申込みは会場で受け付ける

昭和34年1月4日 北海タイムス

かるた開き祭 きょう護国神社で

北海道で初めてと言われるかるた開き祭が古式床しき4日午前11時から北海道護国神社で催される。これは小倉百人一首の巻頭第一首を飾る“秋の田の・・”のお歌で名高い天智天皇を祀る滋賀県大津市近江神社の古式に則り行われるもので平安時代の時代風俗再現する。同神社は本道の新しい民族行事の一つにしようと張り切っているが、式後はかるた連盟の初手合せがある。

昭和34年1月5日 北海タイムス

乙女の姿しばし にぎやかに新春かるた会

お正月をいろいろ恒例の新春かるた会とかかるた開きの儀式が4日午前11時半から北海道護国神社長生館でにぎやかに行われた。旭川かるた連盟の腕におぼえの20余人が参加し、小倉百人一首の巻頭をかざる天智天皇をしのんで平安風俗を再現した朗えいをしたあと、ワイシャツに鉢巻姿も勇ましく「乙女の姿しばし・」「ヤアーツ」と元気にはね回り、鍛えたカンを競いあつた

昭和34年1月5日 北海道新聞

こだま

“本道ではじめて”と言われるカルタ取りの儀が4日、北海道護国神社で行われた。小倉百人一首の巻頭を飾る“秋の田のかりほの庵の苦をあらみわが衣手は露にぬれつつ”という歌を詠んだ天智天皇をまつる滋賀県大津市近江神社の古式にのつとったもの。お祓いや祝詞奏上のあと平安時代の風俗をした神官二人と絆の袴にお下げ髪の取姫によって行われたあと、旭川カルタ連盟の会員たち約30人の初手合せもあったが、同神社では今後も毎年行い本道の新しい民族行事の一つにするそうだ。

昭和34年1月14日 北海タイムス

少年少女かるた大会の順位

中央公民館、旭川レクリエーション協会、旭川かるた連盟共催の少年少女かるた大会は13日午前10時から公会堂で開かれ次のように順位が決まった。◇小中学 ①岩崎毅、野口修二、堀人之 ②須川勇二、佐々木加代子、師尾満美 ③小山内昭、遠藤一己、遠藤美広 ④船水博、谷内宏輔、高畠誠一 ▽美技賞野口修二 ▽敢闘賞 須川勇二 ◇高校生 ①大口昭、穴口一男、野口輝男 ②遠藤弘司、布川吉倍、金内一郎 ▽美技賞 欠畠順子 ▽敢闘賞 遠藤弘司

昭和34年1月14日 北海道新聞

少年少女カルタ大会の成績

中央公民館と旭川レクリエーション協会など共催の少年少女カルタ大会は、13日前午前10時から市公会堂で開かれ、つぎのとおり入賞が決まった。◇小中学の部①岩崎毅、野口修二、堀人之②須川勇二、佐々木加代子、師尾満美 ③小山内昭、遠藤一己、遠藤美広 ④船水博、谷内宏輔高畠誠一 △美技賞 野口修二 △敢闘賞須川勇二 ◇高校の部①穴口昭三、穴口一男、野口輝男②遠藤弘司、布川吉信、金内一郎 △美技賞 欠畠順子 △敢闘賞 遠藤弘司

昭和34年1月17日 北海タイムス

24日に職域かるた大会

市中央公民館は恒例の旭川市長杯争奪第13回職域かるた大会を24日午後2時から市内5の1大和教会で催す。参加資格は市内在住の各職場、職域人により編成したチームで男女の別は問わない。3人で1チーム、同一職域より何チーム出場してもよい。参加料 1チーム300円で参加希望者は24日正午までに同公民館事務局へ申し込むとよい。

昭和34年1月18日 北海タイムス

ねじりはち巻で 消防署で新年かるた大会開く

旭川市消防署職員の新年かるた大会が17日、本署控室で賑やかに行われた。新春恒例の行事だけあって今では署員のほとんどが歴戦の強者ぞろい。本部、本署、各出張所からA、B両クラスにわかつて24チームが出場、消防署員の半数以上72人が参加するというにぎわいよう。この日はA、Bクラスの各六チームがはち巻姿やたすきがけで勝敗を競ったが、18日も引き続き残りのチームが対戦、勝ち残ったチーム同士が決勝を争うという。

昭和34年1月25日 北海道新聞

夜のふけるのも忘れ 市長杯争奪職場対抗カルタ大会

公民館、レクリエーション協会、旭川カルタ連盟主催の第13回市長杯争奪職場対抗カルタ大会が24日午後3時から5ノ11大和神社で開かれた。参加者は市内各官庁、会社など3人1組の24チームで、競技は抽選のうえ組合せを行い、チームが互いに見合って会場にずらりと並び、1人の読み手で百人一首をとりあうというもの。一句を読み上げる瞬間は場内水を打った静けさだが、句を読むとあちこちから威勢のいい気合がかかって、下の句かるたならでは見られぬにぎやかさ、夜の更けるのも忘れ決勝戦が終わったのは26日早晩という気合のこもった大会であった。

昭和34年1月25日 北海タイムス

白熱戦を展開 市長杯争奪かるた大会

旭川中央公民館、レクリエーション協会、かるた連盟共催の第13回市長杯争奪職場対抗かるた大会が24日午後2時から大和神社で行われた。前年の勝者国鉄旭川工場と国策パルプ旭川工場から各2チームが出場したのをはじめ市役所、貯金局、消防署などの役所関係から大工組合、理容組合、洋服組合、木材、土建業者など多彩な顔ぶれ。いずれも職場より抜きの腕自慢とあって緒戦から甲乙つけがたい白熱戦を展開、25日早朝まで市長杯をめぐって覇を争った。

昭和34年1月26日 北海道新聞

パルプAが優勝 職域対抗カルタ大会

第13回市長杯争奪職場対抗カルタ大会は、24日夜大和神社で21チームが参加して開かれたが、成績次の通り ①パルプA（山本、白田、丸毛）②土建A（高橋哲、富山、池田）③郵政（高橋末、宮本、上田）④国鉄A（山谷、奥山、堀井）

昭和34年3月26日 北海タイムス

28日に全道かるた大会

中央公民館、旭川かるた連盟など共催の高松宮ご観覧記念第4回全道下の句かるた大会は28日午後5時から1ノ7山城屋旅館で開かれる。1チーム3人編成で一流と二流に分れ、トーナメントで試合が進められる。申込は一流750円、二流600円の出場料を添え28日午後3時まで同旅館へ。今まで全道各地から約40チームの申し込みがあり、盛会が予想される。

昭和35年1月4日 旭川新聞

かるた大会開く 春光町連婦会主催

児童委員、春光町1区7条～11条連合町内婦人部主催で道連合子供会のかるた大会が3日前午前9時半から一進会館で行われた。会場は『乙女の姿しばし・・』と読みあげるお父さんの声も集まつた小学生から高校生迄の子供達の声に消されてしまう程の盛会で、応援組もみかんやキャラ

メルを口に熱戦を見つめていた。お昼はマンガ児童劇映画会を行いお正月の楽しい集いだった。

昭和35年1月10日 旭川新聞

白熱戦を繰り広ぐ 少年少女かるた大会

第9回少年少女かるた大会は、市中央公民館、旭川レクリエーション協会主催、旭川かるた連盟後援のもと、9日午前9時から市公会堂で約100人の選手が集り開かれた。競技は終始白熱したシーソーゲームが展開され、小中学校の部、高校の部とともに1条5丁目会が優勝、個人敢闘賞は小中学校の部で荒川修君（旭煉A）高校の部宮野勝君（体操B）美技賞は小中学校の部松田清世君（中央B）高校の部は野口輝男君（一条五丁目会）が各々獲得した。順位次の通り

【小、中学校の部】①一条五丁目会=野口修、堀人之、長野政二 ②旭煉A=川田民子、大津廣荒川修 ③中央B=山口成幸、野々村宜昭、松田晴世 ④中央C=坂谷内秀昭、岩瀬正男、堀透 ⑤青雲=近藤庄一、吉岡正行、小川興司 ⑥中央A=佐藤勝、西塙健二、斎藤均

【高校の部】①一条五丁目会=野口輝男、穴口昭三、穴口一男 ②体操B=宮野勝、三上勲、佐々木信二

昭和35年1月10日 北海道新聞

少年少女カルタ大会の成績

第9回少年少女カルタ大会は、9日午前10時半から市公会堂で開かれたが、成績はつきの通り

【高校生の部】①一条五丁目会（野口輝男、穴口昭三、穴口一男）②体操クラブB △敢闘賞 宮野勝 △美技賞野口輝男 【小、中学校の部】①一条五丁目会（野口修、堀人之、長野賢二） ②旭煉A ③中央B ④中央C ⑤青雲 △敢闘賞荒川修 △美技賞松田晴世

昭和35年1月17日 北海タイムス

市長杯争奪かるた大会出場者募る

旭川中央公民館、旭川レクリエーション協会、旭川かるた連盟主催で第14回旭川市長杯争奪職域かるた大会が25日午後5時から大和神社で行うので参加者を募っている。参加資格は市内各職場、職域人で3人1チーム、同一職域から幾チーム参加してもよい。申し込みは23日午前中までに中央公民館に参加料三百円をそえて申し込むとよい。

敬明会親ぼくかるた大会の成績

敬明会青少年親ぼくかるた会がこのほど同会高田会長宅で50数人が参加して開かれ、少年の部では清水、斎藤、工藤組、青年の部では山下、斎藤、谷組がそれぞれ優勝した。

成績次のとおり ▽少年 ①清水俊郎、斎藤文宣、工藤千代子 ②梅本信子、富田あけみ、梅本悦子 ③谷信洋、川内和博、片寄まり子 ▽青年 ①山下満、谷信一、斎藤 ②庄内正英、若狭幸吉、富田澄子 ③中西貢、大石、大石えみ子

昭和35年1月19日 北海道新聞

23日市長杯争奪かるた大会

第14回市長杯争奪職域対抗かるた大会は、中央公民館、旭川レクリエーション協会、旭川かるた連盟共催で23日午後5時から市内5の11大和神社で開かれる。大会は1チーム3人、同一職場からは何チーム参加しても可。参加料は1チーム300円23日午前中迄公民館に申込むこと。

昭和35年1月24日 北海道新聞

正月の腕試し、二つ ハチ巻姿でハーイッ 職域かるた大会

旭川レクリエーション協会、旭川かるた連盟共催の第14回旭川市職域かるた大会は23日午後7時から大和神社で開かれた。参加者は各職域から23チーム、トーナメント戦で試合が開始されたが、取り札を前にして相対した各チームは腕まくりにハチ巻姿のいでたちでハーイッ、トウのかけ声もいさましく深夜まで熱戦が続いた。

昭和35年1月25日 旭川新聞

市長杯争奪職域かるた大会開く

*あか月ばかり・・**さしもしらじな・・**ひるは消えつつ・・**かひなくたたむ・・**我が衣手は・・*各チームは取り札を見つめて真剣そのもの大和神社で開かれた第14回旭川市長杯争奪職域かるた大会23日午後5時半から旭川中央公民館、旭川レクリエーション協会、旭川かるた連盟共催で行われ、夜の更けるのを忘れて火の出るような熱戦をくり広げた。◇市長杯・優勝旗副賞 1位技工会田中時計店(菅原勝、渡辺武、山口幸夫)◇2位理容師会(滝田左右平、松田武、茶畠金市)◇3位パルプA(山本実、白田実、佐々木幸雄)◇4位旭川駅(船山富男、大倉幸男、浦瀬稔幸) なお2、3、4位には公民館とレクリエーション協会から賞状と賞品が贈られた。

昭和35年1月25日 北海タイムス

技工士組合が優勝 市長杯争奪職域かるた大会

旭川レクリエーション協会、旭川かるた連盟共催第14回旭川市長杯争奪職域かるた大会は23日午後7時から大和神社で開かれた。各職場から23チームが参加、トーナメントによって24日午前6時半まで熱戦が展開されたが、技工士組合が市長杯を獲得した。成績次のとおり

- ①技工士組合(菅原勝、渡辺武、山口幸夫)
- ②理容師組合(滝田左右平、松田武、茶畠金市)
- ③パルプA(山本実、平田実、佐々木幸雄)
- ④旭川駅(船山富男、大倉幸男、村瀬稔幸)

昭和35年1月29日 旭川新聞

31日市民かるた大会

旭川市中央公民館、大雪クラブ、レクリエーション協会など共催の第7回旭川市民かるた大会は31日午前10時から6の3旭川隣保会館で開く。旭川市在住の男女。30日まで参加料1人100円(1チーム300円)を添え、公民館事務所あて申込みのこと。

昭和35年2月1日 旭川新聞

ねじり鉢巻きで 市民かるた大会ひらく

第7回市民かるた大会は、31日午前10時から隣保会館で開かれた。市内の青年、壮年に中学生、高校生それと女性も混じて10チームが参加、5会場にわかれ熱戦、一流、二流に分れて競ったあとトーナメントで夜半まで続けられた。次のチームが準決勝に進んだ。◇一流 大雪B、赤翼A、大雪A、鉄道工場 ◇二流 パルプ、赤翼C、1の5、大雪黒龍

昭和35年2月22日 旭川新聞

27日に高松宮ご観覧記念カルタ大会

旭川カルタクラブは、高松宮ご観覧記念第5回全道下の句カルタ大会を27日午後5時から市内1の7勝美屋旅館で行う。

昭和35年2月29日 旭川新聞

越智家具が一位 木工振興会かるた

旭川地区木工振興協会の第5回かるた大会は28日午前9時から旭一魚菜市場ホールで行われた。参加20チーム、60人の選手は「優勝はわが会社に」競った結果、越智家具が優勝した。順位は次の通り ①越智家具製作所 ②熊坂工芸 ③砂田家具製作所 ④上川木工家具製作所

熱戦を繰広ぐ 全道かるた大会

旭川レクリエーション協会など主催の高松宮御観覧記念ならびに故上居殖氏追悼の第5回全道下の句かるた大会は27日午後6時から市内1の7勝美屋旅館で地元旭川をはじめ札幌、小樽、函館、稚内、北見、岩見沢など全道から各地区60チームが参加して行われた。さすが選手は腕に自信のある面々だけに熱戦を繰り広げた。成績は次の通り

- (一流) ①岩見沢梅ヶ枝の梅チーム (毎日賞) ②岩見沢梅ヶ枝の松チーム (毎日賞)
- (二流) ①三笠北炭新幌内 (毎日賞)

昭和36年1月4日 旭川新聞

かるたに大喜び なかよし子ども会 愉快に新年過ごす

市内大町1ノ1町内会“なかよし子ども会”的よい子たち約30人は、2日午前9時から同町内の鈴木さん宅でカルタ大会を開き、みんな愉快に新年の半日を過ごし、おみやげにトランプやカルタをもらって大喜びだった。

昭和36年1月4日 北海タイムス

カルタ開き

北海道カルタ振興会は、7日午後1時から旭川市北海道護国神社でカルタ開きを行う。全道からカルタ愛好者ざつと130人が参加、初手合せを楽しむ。

昭和36年1月6日 北海タイムス

少年、少女カルタ大会出場者を募集

旭川市公民館は10日労働会館で開く第10回少年、少女かるた大会の出場者を募集している。参加資格は市内の小、中、高校生男女で、1チーム3人とする。このうち小、中学チームには、1人以上の小学生を入れることとする。出場希望者は10日朝9時半からの主将会議前に同公民館に申し込むこと。なお組合せは主将会議で行うが、参加者に賞状、賞品を多数そろえてある。

和気あいあい 春光町青空こども会

トランプ、カルタで楽しむ

"冬休みを楽しく"と春光町1区青空こども会(霧島清隆会長、工校3年)と同じのみこども会(大場宜弘会長、北高3年)のよいこたちざつと60人は、4日、春光町1区9条の"いっしん会館"に集まり、午前10時から百人一首、トランプなどを楽しみお昼にはみんなでつくったおしるこに舌づみ、午後は映画会をして有意義な半日を過ごした。

昭和36年1月8日 旭川新聞

全道から50人参列 古式豊かにかるた祭

旭川かるた振興会主催の第3回北海道かるた開き祭は7日午後1時から護国神社で行われた。まず藤枝宮司の祝詞について、近江神宮で行われるかるた祭の古式にのっとり護国神社のミコが下の句を読んで下の句を取る式が厳かに行われたあと全道からきた約50人の参列者により、3人づつ組んで下の句かるた会が催されたが、小、中学校の生徒も参加し盛大だった。

昭和36年1月8日 北海タイムス

古式ゆたかに かるた開き式・躍りぞめ

○・・北海道かるた開き式は北海道かるた連盟振興会(佐藤門司会長)の人達によって7日午後1時から護国神社で開かれた。読み札、取り札を神前にそなえ、神主さん達がうやうやしく祝詞を奏上、このあと神主さん代行の奉行から読み師に読み札が渡され白の打掛けに緋の袴という古式姿の2人の取り娘が向かい合った"君が代"のから札からはじまり北海道式の下の句取りが静かに4、5回繰広げられ儀式は終わった。続いて北海道に名をはせている赤翼、大雪の両クラブ員や、小、中、高生など約60人による初手合せもあり、かるたファン達は1日を楽しんだ。

昭和36年1月8日 旭川新聞

10日に少年少女かるた大会 公民館で出場者募集中

中央公民館は10日午前9時半から労働会館で第10回旭川市少年少女かるた大会を開くので、出場者を募っている。参加資格は市内在住の小、中、高校生で、小・中学生の部、高校生の部に分け小・中学生の部は小学生1人以上必ず含み、1チーム3人(男女混成)で試合はトーナメント式による。出場希望者は10日午前9時20分までに公民館に申し込むとよい。

昭和36年1月10日 旭川新聞

17、18日にカルタとピンポン大会 北星、春光児童会館

北星児童会館のカルタとピンポン大会は17日午後1時から同館に、よい子たちが集まって開く。また春光児童会館でも18日午後1時から同館でカルタとピンポン大会を催す。どちらも1位から4位まで参加賞の学用品を全員に贈る。なお男子、女子の部に分けて順位を争うカルタは3人1組で小、中学生の部は必ず1人は小学生を含め一般勤労者少年18歳未満を含めたトーナメント制。

昭和36年1月11日 旭川新聞

北門チームが優勝飾る 少年少女かるた大会

市公民館、旭川かるた連盟共催の第10回少年少女かるた大会はきのう10日午前10時から市内の小・中、高の16チーム、48人が参加して労働会館で行われた。小、中の部、高校の部に分れ、女生徒もまじえ、元気いっぱい白熱戦を展開した。成績はつぎのように決まった

小、中校の部①北門チーム(佐々木三喜雄、碑田あきら、佐々木富二雄) ②桜 ③有明 ④石森
高校の部①旭商(宮野勝、野尻隆、佐々木信二) ②有明

昭和36年1月11日 北海タイムス

北門、旭商が優勝 少年少女かるた大会

旭川市中央公民館主催の第10回旭川少年少女かるた大会は10日午前10時半から労働会館で小中校12、高校4チームが参加して行われたが、成績次のとおり

◇小中校の部①北門チーム(佐々木三喜雄、卑畠暁、佐々木富二雄) ②桜(松下健一、小野寺茂
佐々木守)③有明(高橋利充、長谷智行、橋本強) ④石森(石川清敬、石川雅晴、森山茂)

◇高校の部①旭商(宮野勝、野尻隆、佐々木信二)②有明(野口輝男、野口条、堀人之)

昭和36年1月17日 北海道新聞

春光地区子供会対抗カルタ大会

中央公民館では、17日午前10時から公民館末広分館で春光地区子供会かるた大会を開く。チーム編成は、小、中学校の部と高校生の部に分け、1チーム3人で男女混成でも良く、出場希望の同地区子供会会員は同日午前9時までに末広分館に申込むこと

昭和36年1月17日 旭川新聞

本部に市長杯 消防職員 親和会でかるた大会

市の消防職員でつくられている親和会文化部(荒尾平助部長)の第14回親睦かるた大会は、14日15日の2日間、市消防本部、署で100余人が集まっておこなわれトーナメント敗者復活戦で技を競った結果、Aクラス1位の本部(米田○久、鎌田哲義、畠山喜雄)チームが市長杯を、Aクラスの本署(岡崎末彦、小泉宗昭、佐藤繁)チームが署長杯を獲得した。この大会は昭和23年から毎年続けられているもので成績つぎのとおり。14日 A班(Aクラス)△1位本部(米田○久、鎌田哲義、畠山喜雄)△2位北星(山口弘、鳥谷部豊、岸力雄)△3位本署(大西正、浅井秀人、高田朋英)(Bクラス)△1位本署A(野々村国松、大塚栄吉、中原國昭)△2位本部(畠山武雄、伊奈重和、高田四郎)△3位本署B(小柳義美、大井勝視、喜久永顕博) 15日 B班(Aクラス)△1位本署(岡崎末彦、小泉宗昭、佐藤繁)△2位西(松尾芳雄、西野粹、安藤義昭)△3位新旭川(佐野英夫、小林隆、藤沢勉)(Bクラス)△1位(遠藤重男、大塚栄吉、千葉達也)△2位(萩野忠彦、大黒洋司、川瀬寿雄)△3位(米山三悦、近藤福男、佐藤満雄)

昭和36年1月19日 北海道新聞

おかあさんが読み手 三ノ七町内会の新年子供会

遊ぶ相手も場所も少ない繁華街の子供たちに、1日ゆっくり遊んでもらおうと、冬休みも残り少なくなった18日朝から、市内3の7町内会が"新年子供会"を4の7三日月で開いた。集まった60人からの子供たちは、お母さんたちの心尽くしのお菓子やお弁当をほおぼりながらカルタやいろいろなゲームに大はしゃぎ、おとうさんやおかあさんたちもこの日ばかりは仕事のことも忘れて、カルタの読み手をつとめながらも楽しい1日を過ごした。

昭和36年1月20日 北海タイムス

こっちはおとなドタンバタン 消防本部職員もかるた会

旭川市消防本部職員グループ『親和会』はこのほど本部会議室で新年恒例かるた大会を開き、約30人の職員がドタンバタンとほこりをあげた、その翌日には、勤務で出場できなかつた約30人が参加それぞれ優勝チームには市長杯、署長杯と副賞、出場者にも敢闘、技能、殊勲などさまざまな賞が贈られた。成績次のとおり△A班▽Aクラス①本署(米田、鎌田、畠山)②北星出張所(山口、鳥谷部、岸)③本署B(大西、浅井、高田(朋))▽Bクラス①本署A(野々村、大城、中原)②本部(干野、伊那、高田(四))③本署(小柳、大井、喜久永)△B班▽Aクラス①本署(岡崎、小泉、佐藤(繁))②西出張所(松尾、西野、遠藤)③新旭川出張所(佐野、小林、藤沢)▽Bクラス①東出張所(遠藤、大塚、千葉)②北星出張所(田中、大黒、川瀬)③本部(近藤、佐藤、米山)

昭和36年1月23日 北海タイムス

28日市長杯争奪かるた大会

旭川公民館主催、第15回旭川市長杯争奪職域対抗かるた大会は28日午後5時から旭川市大和神社で開かれる。申し込みは同日正午まで公民館事務局で受け付けている。

昭和36年1月27日 北海道新聞

かるた大会

市中央公民館、旭川かるた連盟、旭川レク協主催の第15回市長杯争奪職域対抗かるた大会は28日午後5時から市内5ノ11大和神社で開かれる。各職場、職域別に3人で1チームを編成するもので、男女別は問わない。当日正午まで公民館で申込みを受けつけ午後4時から会場で組み合わせを決める。参加料は1チーム300円。

昭和36年1月28日 北海タイムス

△見もの聞きもの△

第15回旭川市長杯争奪職域対抗

かるた大会は28日午後5時から大和神社。

昭和36年1月29日 北海道新聞

一声ごとに気合 市長杯争奪カルタ大会

中央公民館主催の市長杯争奪職域対抗カルタ大会が、28日午後6時から6ノ11大和神社で開かれた。市内の各職場から24チーム72人が参加。前野市長のあいさつのあと大きな広間いっぱいにぎやかにカルタとりが始まった。お正月に練習を重ねた参加者たちは、読み上げる百人一首の一聲ごとに鋭い気合いをいれ深夜まで技を競い合った。

昭和36年1月30日 北海タイムス

熊坂工芸Aが優勝 市長杯争奪職域対抗カルタ大会

中央公民館主催の第15回旭川市長杯争奪職域対抗カルタ大会は24チームが参加して28日午後6時から大和神社で開かれた。ねじりはち巻き姿の72人の選手は1枚1枚と慎重なカルタ取りの風景をみせていたが熊坂工芸Aが初優勝した。入賞チームは次のとおり。

①熊坂工芸(前原実、鈴木照夫、沼倉功)②土建チーム(高橋諒、富山和昭、池田務)

③国鉄車掌区(豊島富喜男、佐藤俊治、大倉幸男)④洋服組合(河合秀昭、上田高志、寺門五一)

昭和36年1月31日 北海タイムス

堅い床に闘志もくじける？ 旭労会議青婦協主催で花やかにかるた大会

【中央】旭労会議青婦協(今村登議長)主催、新春かるた大会は29日午前9時半から労働会館で開かれ、熱戦を繰り広げた。出場したのは15単産17チームで選手は紅一点藤田博子さん(国策パルプ)のほかは腕に覚えのある男性ばかり50余人。会場の館内会議室は床がコンクリートの為ゴザを敷き、その上にシートをあてがった普通畳での対戦と違って素早く札を擧げても選手達はドタバタ暴れることもできず、日ごろの闘志たちも堅い床にすっかり弱りきったようす。それでも読み手がよみ終わらないうちに札をとるなどあざやかな戦闘ぶり。周囲をとりまく職場の同僚、友人たちに激励されて終始楽しいプレーを展開した。結局国鉄労組車掌区が初優勝し今村議長からカップ、賞品が贈られた。成績次のとおり①国鉄車掌区(豊島、嵐、佐橋)

②川田木工(三浦、山口、松岡)③全通鉄郵会、全電通電報局分会

昭和36年2月3日 北海タイムス

全道優勝めざし猛練習 旭川カルタ連盟

【中央】旭川カルタ連盟(河合秀昭会長)は今月中旬、登別で開かれるカルタ全道大会の優勝を目指す会長宅や副会長の滝田左右平宅で猛練習をしている。大会には5チームほど出場するが旭川チームは過去2回優勝している。

昭和36年2月18日 旭川新聞

会と催し

◇高松の宮御観覧記念第6回全道下の句かるた大会(午後5時)護国神社

昭和36年2月20日 北海タイムス

昼夜とおしで熱戦 全道下の句かるた大会開く

旭川レクリエーション協会、旭川かるたクラブなどによる第6回全道下の句かるた大会は18日午後9時の開会式に引き続き19日午後3時半まで旭川市の北海道護国神社と同市労働会館を会場に昼夜通しての熱戦を繰り広げたが出場58チーム、174人の中からAクラスでは、金星クラブ(札幌)が優勝、Bクラスは準々決勝で残った芦別の2チームと室蘭、三笠が対戦しないまま時間切れとなつて引き分けた。19日の会場は、勝ち残ったチームはいずれも昨夜から一睡もしていないとあって、目を赤くしての対戦、読み手の声がひびくとシーンと静まりかえり、ひと札ごとに物いいがつくという全道大会にふさわしい白熱戦を演じた。成績次の通り

【Aチーム】①札幌金星の金 ②旭川赤翼の松 ③旭川赤翼 三笠弥龍生新生

【Bチーム】①若桜(芦別)玉光(芦別)いく代(室蘭)千鳥(三笠)

昭和37年1月4日 北海道新聞

少年少女かるた大会

旭川市公民館主催の第11回少年少女かるた大会が10日午前10時から同市労働会館で開かれる。対象は市内の小、中学生で参加料はいらない。1チーム3人で男女混合でもよい。1チーム内に必ず小学生1人を入れること。競技方法はトーナメント戦で、10日午前9時までに同公民館に申込むとよい。なお主会議は当日午前9時半から行うので各チームから1人参加すること。

みんなで楽しく 元気にカルタや書きぞめ

○新春の3日、市内では、こども会の主催で書きぞめ会やカルタ会が各町内ごとに開かれた。春光町児童会館に集まったのは鈴谷こども会の良い子たち20人。小森青雲先生の指導でみんなそろって“楽しいお正月”を書き上げた。青雲の方針も“のびのびと自由に”とあって、こども達も筆にタップリ墨をふくませ、台の上にまで上がって思い思ひに筆をおどらせていた。

○カルタ会にこどもたちも大はしゃぎ、『しづ心なく花の散るらん』の下の句の途中でハイツハイツと元気な声が会場いっぱいにはずみ、お手つきも飛び出す。このあと各自が持ち寄ったトランプやごろく遊びで、こどもたちは1日いっぱい正月を楽しんだ。

昭和37年1月4日 北海タイムス
7日にかるた開き祭り

北海道護国神社主催の北海道かるた開き祭りは7日午後1時から同神社で開かれる。祭のあとには、道内各地の代表たちで初手合せが行われるが昨年は約60人が参加している。

昭和37年1月7日 北海タイムス
会と催し(1月7日) 白樺子どもカルタ大会(午後1時) 第2保育所

昭和37年1月8日 北海道新聞
おしるこ会やかるたとり よい子たち七日正月楽しむ

日曜日の7日、市内の子供会や幼稚園でカルタ会やおしるこ会が開かれて“七日正月”を友達といっしょに楽しんだ。

○やまと幼稚園(5の11)では初顔合わせをかねてのおしるこ会。園児60人は神社に年始参りをして『ことしも元気ないい子になります』と祈ったあと先生やおかあさんたちの心づくしのおしるこに舌つづみをうったが『お代わりちょうどい』となかなかの健たんぶり、小さい口を動かしてお正月のお話、カルタとりでにぎやかな半日をすごした。

○・・また旭川隣保会館(6の3)では、隣保会、北星両母子寮子供会の交歓競技大会が開かれた。“子供は家にばかりいてはダメ”と社会福祉事務所が計画した初の試み。50人の子供たちに市の職員8人も仲間入り、卓球やバトミントン、輪投げ、いろいろカルタ、百人一首などなごやかな交歓風景をくりひろげた。子供たちには赤飯や菓子折りのおみやげ。優勝した隣保寮子供会は初の市長賞を獲得して大喜びだった。このほかパルプ子供会新年芸能大会などアチコチで子供達の正月の催しがあり、にぎやかな“七日正月”だった。

昭和37年1月9日 北海道新聞

神楽 カルタ大会成績

町連合青年団主催カルタ大会はこのほど、西神楽青年研修所で開かれたが、成績次のとおり

[男子] ①聖和青年団A ②昭和青年団B ③共進青年団

[女子] ①ミヅ木青年団 ②共進青年団 ③聖和青年団

昭和37年1月11日 北海道新聞

がんばる豆選手 少年少女かるた大会開く

中央公民館主催の第11回少年少女かるた大会が10日午前10時から労働会館で開かれた。参加したのは、市内の小中学生と高校生など13チーム39人。この日は全校登校日とかちあつたため参加者は少なかったが、木ふだを前にした豆選手たちはみんな懸命。トーナメント戦でにぎやかにわざを競った結果、次のとおり順位が決まった。

▽小、中学生の部 ①北星(岩佐茂、中島啓一、月坂力) ②鈴谷街 ③旭煉 ④燕A

▽高校生の部 ①有明(野口修二、堀人之、堀とし子) ②若草

昭和37年1月12日 北海タイムス

小中学の部で北星 少年少女かるた大会 高校は有明が優勝

【中央】市公民館主催の第11回少年少女かるた大会が10日午前10時から労働会館で開かれた。お正月でぐんとウデをあげた市内の小、中、高校生39人が参加、3人1組になって大張り切りでカルタ取りに興じたが、小中学生の部で北星チーム、高校の部で有明チームがそれぞれ優勝。5時間にわたって開かれた熱戦の幕を閉じた。成績は次のとおり【小中学の部】①北星チーム(岩佐茂、中島啓一、月坂力) ②鈴谷街チーム(林和男、皿木滋啓、佐保剛) ③旭煉チーム(谷口浩三、荒川収、今野仁) ④つばめAチーム(山室清孝、小川邦子、木内和博) 【高校生の部】①有明チーム(野口修二、堀人之、堀とし子) ②若草チーム(穴口吉博、石井理八、菅原通有)

新春カルタ大会 14日に大有地区子ども会

【北星】青小協大有地区協議会(中川清会長)の主催で大有地区子ども会新春カルタ大会が14日午前10時から大有小で開かれる。1チーム3人で高校生が勤労青年1人、中学生1人、小学生1人で編成することになっており現在参加チームを募っている。優勝チームには、市長賞がでるほか、参加チーム全部に子ども会の備品用として百人一首が贈られる

若葉会が優勝 大成地区子どもカルタ大会

【大成】大成地区子ども会作品展とカルタ大会が7日午後1時から大成小テレビ室で開かれた。カルタ大会には約70人が参加。札の取り合いにウデを競ったが宮前西の若葉子ども会(佐藤克志会長)が優勝、市長賞を手にした。

昭和37年1月19日 北海道新聞

市長杯争奪かるた大会

第16回市長杯争奪職域かるた大会は28日正午から常磐公園内の常盤会館で開かれる。チームは3人編成で一部二部に分かれ一部は旭川かるた連盟に所属していないもの(旭川かるた連盟理事長が許可した会員は除く)で編成し、二部は連盟所属チームで編成することになっている。参加者は1チーム300円で、26日午前中に中央公民館に申し込むこと。

昭和37年1月28日 北海タイムス

職域対抗カルタ大会組み合わせ

第16回市長杯争奪職域対抗カルタ大会は28日午後1時から常盤会館で開かれるが、組み合せが次のとおり決まった。(トーナメント表省略)

昭和37年1月29日 北海タイムス

国鉄(一部)が優勝 市長杯争奪職域対抗カルタ大会

花の色は・・読み手の美声にのせて第16回旭川市長杯争奪職域対抗カルタ大会が28日、市内常盤会館で開かれた。ざっと30チームが参加、午後1時から熱戦を繰り広げたが、一部で国鉄チームが優勝した。成績次のとおり ▽一部①国鉄(堀井、日置、大倉) ②神谷組(百田、高橋、富山) ③熊坂工芸B(関口、出藏、吉田) ④道北機械(高村、内山、秋田)
▽二部①土建(高橋、菅原、佐々木) ②旭産木工(藤森、寺門、山本)

昭和37年1月29日 北海道新聞

国鉄、土建が1位 市長杯カルタ大会

“しづ心なく花の・・”田井三之さんら旭川カルタ連盟の読み手が下の句を読み終わらないうちに“ハーイ”と手が飛んで、緊張の会場は一瞬ざわめく。これは28日旭川市常盤会館で開かれた旭川市長杯争奪職域対抗カルタ大会の一こま。この日4つの日本間で国鉄など30チーム90人が日頃の練習の成果を競った。午後8時すぎまで続けられたが昨年の優勝チーム熊坂工芸Aが川田木工に敗れ、ダークホース開発局Bが昨年2位の車掌区を破るなど番狂わせを演じて大会気分を盛り上げていた。成績次のとおり ◇第一部①国鉄(堀井、日置、大倉) ②神谷組(百田、高橋、富山) ③熊坂工芸B(関口、出藏、吉田) ④道北機械(高村、内山、秋山)
◇第二部 ①土建(高橋、菅原、佐々木) ②旭産木工(藤森、寺門、山本)

昭和38年1月10日 北海タイムス

手より口が動く 大町さくら子供会 にぎやかにカルタ大会

“きょうここのえに匂いぬるかな”とにぎやかにカルタ会が9日午前11時半から大町小学校で開かれた。冬休みで正月気分の抜けきらない子供たち約80人がおかあさん方の手腕の甘酒といなりずしに舌つづみをうつたあと百人一首、トランプなど約15組ほど分かれて始まった。休みで久しぶりに友だちと会ったせいか口の方が忙しく“ワーウー”“キャーキャー”と大変なにぎやかさ。おかあさんもカルタの読み札を読むのに一苦労。元気な子供達の楽しいカルタ会であった。

昭和38年1月11日 北海タイムス

小、中学の部は鈴谷街チーム 少年少女かるた大会

旭川市公民館主催の第12回全市少年少女かるた大会は10日午前10時から市労働会館で開かれた。大会は小、中学校と高校の部に分かれリーグ戦で行われたが成績次のとおり
▽小中学校の部①鈴谷街チーム(皿木滋啓、八橋幸博、佐保豪)②住吉チーム(深坂勉、中島政則、深坂重) ③常盤Aチーム(野々村宜明、石井勝美、前川真史)▽高校の部 ①新緑チーム(穴口聰、長谷川満、谷口浩三) ②北星チーム(岩佐茂、中島啓、月坂力)

昭和38年1月11日 北海道新聞

小中学生の部は鈴谷街チームが優勝 少年少女かるた大会

中央公民館主催の第12回少年少女かるた大会が10日午前10時から労働会館で開かれた。出場は小中学生の部6チームでトーナメント敗者復活戦。高校の部は4チームでリーグ戦。中学生の中には女性徒も混じり色々の華やかさ。試合は始めから緊迫し若々しい元気な掛け声が乱れとび、審判に当った公民館職員も『大人顔負けの迫力があります』と我が事の様に真剣な表情だった。成績は次のとおり ▽小中学の部①鈴谷街チーム(皿木滋啓、八橋幸博、佐保豪)②住吉チーム(深坂勉、中島政則、深坂重) ③常盤Aチーム(野々村宜明、石井勝美、前川真史)
▽高校の部①新緑チーム(穴口聰、長谷川満、谷口浩三) ②北星チーム(岩佐茂、中島啓、月坂力)

昭和38年1月12日 北海タイムス

電光石火、のびる若い手 全市少年少女かるた大会

【中央】第12回全市少年少女かるた大会は10日労働会館で開かれた。参加チームは小中学の部6、高校の部4チームで旭川かるたクラブの河合秀昭さんらベテランの読み手で各チームとも一生懸命かるた取りに腕まえを奮った。成績は小中学校の部では、皿木滋啓君のひきいる鈴谷チームが、高校では穴口聰君のメンバーが優勝した。なお成績は11日付け朝刊市内版で既報
郊外班対抗かるた大会

雨粉中の郊外班では10日、元気いっぱいにかるた会を開いた。郊外班対抗で行ったもので、北海道下の句かるた会。朗々とした読み手の調子に合わせ”ハイッ””ハイッ”となごやかなうちにも勢いよく札をとりあっていた。

昭和38年1月15日 北海タイムス

誠和会館で新春かるた大会

春光東町内会(山川広会長)の新春かるた大会が15日午前9時半から春光町2区2条の誠和会館で開かれる。小学校低学年の部、同高学年、同一般などに分かれており、参加チームは約15。

昭和38年1月16日 北海道新聞

飛び石連休

残り少ない冬休みを楽しもうと、春光東町内会(山川広会長)では新春かるた大会が開かれた。会場の誠和会館には午前9時すぎから小、中学生、それに町内のおとなたち約50人がつめかけなかなかのにぎわい。3人1組になって札を競いあつた。

高校は新緑会1位 近文こどもカルタ大会

近文地区連合こども会主催の15町内会対抗戦カルタ大会は24チームが参加、15日市内近文会館で行われた。成績次のとおり▽高校の部①新緑会 ②緑 ③旭煉会 ④緑会B ⑤親交会 ⑥旭西会
▽中小学校の部 ①旭煉のA ②旭煉のB ③東近文 ④中央 ⑤公衛 ⑥親交会

昭和38年1月19日 北海タイムス

東地区青少協かるた大会

東地区青少協では20日午前10時から朝日小学校で地区対抗かるた大会を開くが、またこれに先立って19日午後2時から同校で同地区連合子供会役員会を開き、同かるた大会の運営などについて協議する。

昭和38年1月30日 北海タイムス

近文桔梗(小中学の部)が優勝 子供会地区対抗かるた 90人が参加競う

【西】子供会地区対抗かるた会が27日午前9時から約90人が参加して労働会館で行われた。参加したのは市内の各地区の子供会から選抜された勤労青少年の部13チーム、小中学生14チームの計27チーム。”三笠の山にいでし月かも””ハイッ”と大変なにぎやかさ。おとな顔負けの札取りぶりだった。成績つぎのとおり

▽小中学校の部①近文桔梗子供会 ②春光東鈴谷街子供会 ③神居友好子供会

▽高校・勤労青少年の部①春光西若葉子供会 ②大成暁子供会 ③近文若葉子供会

奥さん組も大奮闘 4の21 かるた大会開く

【東】4の21共栄町内会では26日午後7時すぎから同町内旭都商工組合2階で、恒例の町内かるた大会を開いたが班対抗では8班の間で読み札を競い合い結局3班と6班が決勝戦に進み、6班の追い込みをしりぞけ3班の茶畠組が優勝した。また一般では7班の奥さん組が子供さんの声援に応えて大の男を向こうに回し、3戦全勝の大活躍ぶりにやんやのかっさいを博し、同11時過ぎ参加者全員が賞品をもらって散会した。

昭和38年1月31日 北海タイムス

市長杯争奪職域かるた大会

旭川市中央公民館では2月10日午前9時から第17回市長杯争奪職域かるた大会を春光町末広会館で行う。参加資格は同じ職場または職種の人たちで構成したチームであること。3人編成(男女を問わず)で1チームの参加料は300円。2月7日まで同公民館またはかるた連盟理事長(河合秀昭宅4ノ6仲)まで

昭和38年2月2日 北海タイムス

10日に市長杯争奪かるた大会

旭川市、旭川市中央公民館、旭川歌留多連盟、旭川レクリエーション協会主催の第17回旭川市長杯争奪職域かるた大会が北海タイムスの後援で2月10日(日)午前9時から末広会館で開かれる

申し込みはつぎのとおり。◇旭川市の各職場または職種を同じくする人でチームの制限なし。◇チーム=3人編成で男女の別を問わず、ただしカルタ連盟所属会員で理事長が許可した会員二部として組合せする。◇申し込み=1チーム300円で2月7日まで旭川中央公民館または旭川市4の6河合秀昭宅。◇競技方法=トーナメント式で8日午後1時から組み合わせをする。

昭和38年2月4日 北海タイムス

10日に市長杯争奪のかかるた大会

市中央公民館、旭川歌留多連盟、旭川レクリエーション協会主催の第17回旭川市長杯争奪職域かるた大会が10日午前9時から中央公民館末広分館で開かれる。日本古来から親しまれている百人一首を愛好する市内各職域の人たちが腕を競い合おうというものでチームは男女を問わず3人編成。参加申し込みは7日午後5時までで、市中央公民館が4の6河合秀昭連盟理事長まで申し込むこと。組合せは8日午後1時から中央公民館で行われる抽選会で決められる。

昭和38年2月9日 北海道新聞

うで競う市民カルタ大会

10日第17回職域市民カルタ大会午前9時から公民館末広分館。官庁、木工関係から約10チームが参加、ウデを競い合う。優勝チームには市長杯が贈られるほか、かずかずの賞品、賞状が出る。参加料は1チーム300円。当日でも受け付ける。

昭和38年2月11日 北海タイムス

一位は土建チーム 盛会だった市長杯争奪職域かるた大会

市長杯争奪職域かるた大会が10日午前10時から末広分館で14チームが参加して行われた。『きょうここのえ・』という余いんのある札の読みに『ハイ！あつた』と大変な勢い。1回とるごとに取り札がめちゃめちゃになるほどの張り切りよう。にぎやかなかるた会だった。

成績次の通り①土建(高橋諒、富山和昭、百田芳則) ②昭和木材(山本光信、出藏栄七、池田務)
③国鉄(日置隆、堀井俊資郎、大倉幸男)

昭和38年2月11日 北海道新聞

市民カルタ大会 シーズンの総決算 激戦の末土建が優勝

中央公民館主催の第17回職域市民かるた大会が10日午前10時から同公民館末広分館で開かれた。かるたシーズンはちょっと遠のいた感じだが、これは正月中に競った腕前の総決算というわけ。この日参加したのは市内の官庁、木工関係工場のトップクラス14チーム。はじめに昨年の優勝チーム国鉄から優勝旗返還され3コートで熱戦の火薬を切った。かるたが残り少なくなるにつれて激しさも加わり、鋭い掛け声とともにからだごとかるたにぶつかるなど終始手に汗をにぎる好ゲームを展開した。成績次のとおり ①土建(高橋諒、富山和昭、百田芳則)

②昭和木材(山本光信、出藏栄七、池田務) ③国鉄(日置隆、堀井俊資郎、大倉幸男)

昭和38年2月22日 北海タイムス

26日に全道下の句かるた大会 高松宮ご観覧記念

北海タイムス社、旭川市、旭川レクリエーション協会、道かるた振興会、旭川かるた俱楽部共催の『高松宮ご観覧記念第8回全道下の句かるた大会』26日午後7時から、旭川市1の7よねや旅館を会場に道内から30チームが参加、北海道独特の下の句かるた大会が展開されることになった。参加チームはそれぞれ市町村を代表するメンバーで、たくみな手さばきとカンの戦いが進められる。出場チームは次のとおり

函館、小樽、札幌、江別、岩見沢、三笠、苫小牧、室蘭、美唄、奈井江、砂川、歌志内、滝川、留萌、羽幌、芦別、帶広、釧路、赤平、沼田、名寄、稚内、北見、網走、夕張、紋別、士別、深川、美深、旭川

昭和38年2月23日 北海道新聞

土日ガイド

『第8回全道下の句カルタ大会』午後7時から1の7米屋旅館で開かれる。地元旭川をはじめ札幌、函館、釧路、帯広などから50チーム150人が参加。A、Bの2クラスにわかれ自慢のウデを競う。日曜の正午ころまで熱戦を続けるが、もう一度正月気分が味わえる。

昭和38年2月24日 北海タイムス

お知らせ 会と催し (旭川)

第8回全道下の句かるた大会(午後7時)1の7米屋旅館

昭和38年2月25日 北海道新聞

旭川勢2位、4位

◇第8回全道下の句かるた大会(23日、24日よねや旅館)

◇一流の部 ①岩見沢梅ヶ枝梅(雨池忠則、山田茂夫、江川晋蔵) ②旭川松(河合秀昭、高橋諒
藤森辰男) ③美深纏 ④赤平北光木 ◇二流の部①三笠秀雲(吉川末松、栗谷健治、鶴谷吉至)
②北炭夕張錦月(相生重春、玉田稔) ③旭川大雪 ④中川朔北の恵

昭和39年1月11日 北海タイムス

15日にカルタ大会 春光地区子ども会

【春光】春光地区子供会では15日朝9時半から北鎮小で新春カルタ大会を開く。

昭和39年1月11日 北海タイムス

26日にカルタ大会 全市子供会地区対抗

【中央】中央公民館主催第2回全市子供会地区対抗カルタ大会は26日午前9時から同館で開かれる。地区予選を勝抜いた14地区の代表が参加。この組合せ会は24日夕4時から市役所で行う

昭和39年1月12日 北海タイムス

きょう北海道かるた祭

北海道かるた祭は12日北海道護国神社で催される。午前11時から北海道かるた名人位奉告祭があり、旭川の兼平千代吉、平間清治、河合秀昭さんら10人に全日本歌留多本院の名人位認証授与がある。この後正午から北海道かるた開き祭、1時から北海道名人位奉納試合が行われる。

昭和39年1月13日 北海タイムス

春光西地区協議会カルタ大会 15日北鎮小

【春光】青少協春光西地区協議会は、15日午前9時から北鎮小で新年子供会カルタ大会を開く

昭和39年1月16日 北海タイムス

かけ声も勇ましく 春光西地区青少年保護育成協 子供会かるた大会

春光西地区青少年保護育成協議会では、15日午前9時半から北鎮小で地区子供会のかるた大会を開いた。この日参加したのは15チーム、7ブロックの予選を勝ち抜いてきた強豪ばかりだ。大会は小中学生、高校・勤労青少年男子、同女子の3部に分かれて行われたが優勝したチームは中央公民館主催で26日開かれる全市子供会代表かるた大会の出場権を得るとあって一生懸命。
"ハイー"というかけ声のもとに札を取っていた。

昭和39年1月16日 北海タイムス

熱心にかるた会 つづら会25人が参加

【中央】7の6町内会子供会"つづら会"石川誠会長の新年交礼かるた会が、14日午後1時から同地区的嵯峨さん宅で開かれた。この子供会の会員は約40人だがこの日参加したのは25人。まずかくし芸大会を行ったのちかるた大会に移ったが"山の奥にも・・"とか"乙女の姿・・"などという、読み札の声に合わせて熱心にかるた取りに興じていた。

昭和39年1月18日 北海タイムス

若葉子供会が優勝 かるた大会

春光西地区青少年保護育成協議会主催のかるた大会は15日北鎮小で行われたが、小中学生の部では住吉町若葉子供会が優勝、高校・勤労青少年男子の部では昨年に引き続き若葉子供会が勝った。また女子の部では春光一区ひばり子供会が優勝した。高校・勤労青少年の部で優勝した若葉子供会はこどりの全市子供大会でも優勝しておりだんぜんの強味を發揮していた。

昭和39年1月18日 北海道新聞

残り少ない冬休み カルタ大会

休みもあとわずか、その1日を楽しく過ごそうと市内末広地区の子どもカルタ大会が17日午前10時から末広地区公民館で開かれた。同地区では、冬休み中、子どもたちが健全に過ごせるようになると毎日卓球教室を開いてきたが、冬休みも少なくなり、宿題などで忙しくなるので、カルタ大会で最後を飾ろうというもの。この日、会場には地区内の各子供会の代表選手たちが多数集まり、大にぎわい、仲間から盛んに声援を受け真剣な表情。同地区青少年保護育成協議会のおじさんたちが読み手にまわり子どもたちは元気いっぱい。女流選手の参加も目立ちハーハーという大きな声が会場いっぱいに響きわたり、休日のひとときを楽しんでいた。成績次の通り

①鈴谷子供会 ②いづみ会A ③二組 ④いすみ会B ⑤こばとB ⑥こばとA

昭和39年1月21日 北海道新聞

26日区域対抗 子供かるた大会

市、市教委、旭川青少年対策保護育成協議会主催の”子供会地区対抗かるた大会”は26日午前9時から市労働会館で開かれる。小中学の部、高校勤労青少年男子の部、同女子の部の3部に分れ1チーム3人、21日まで中央公民館に申し込むとよい。

昭和39年1月21日 北海タイムス

子供会地区対抗かるた大会の実施要項

市、市教育委員会、旭川青少年対策保護育成協議会主催の”子供会地区対抗かるた大会”は26日午前9時から労働会館で開かれるが、この実施要項が次のように決まった。▽出場資格 地区協議会における予選の勝者。▽ 資格①小中学校の部 小学生1人以上を含む ②高校、勤労青少年の部男子の部(20歳未満) ▽試合方法 各部ごと3~4チーム1組とするリーグ戦による勝者をもってトーナメント戦を行う。▽ 参加料 無料 ▽賞 各部ごとに3位まで入賞。参加者に参加賞。▽ 申し込み 21日までに地区協議会を通じて参加選手名を記入のうえ、中央公民館に申し込むこと。▽その他 地区代表チームは各地区毎に予選を行い各部夫々1チームを選出すること

昭和39年1月21日 北海タイムス

鈴谷街が一位 末広地区で子供かるた大会

末広地区的子供かるた大会が17日午前10時から末広地区公民館で開かれた。同地区の小中、高校生たちは冬休み中卓球教室などを開いて毎日を過ごして来た。これらの催しへ青少年の健全育成を目的に行われて来たものだが、冬休みの最後の思い出にとカルタ大会を催したもの。大会には同地区の子供会代表が選手として出場し、同地区青少年保護育成協議会の指導員が読み手となって一日を楽しく過した。成績は次のとおり

①鈴谷街子供会 ②いづみ会 ③二組 ④いづみ会B ⑤こばと ⑥こばとB

昭和39年1月25日 北海道新聞

日曜日 かるた大会

第2回子供会地区対抗かるた大会は26日午前9時から労働会館で”百人一首”を通じて青少年の情操を高めようと旭川市、市教委、旭川青少年対策保護育成協議会が昨年から催している行事。小中学校の部、高校、勤労青少年の部、同女子の部の3部に31チームが出場腕を競う。

昭和39年1月26日 北海道新聞

かいと催し 公民館かるた大会 午前9時半 労働会館

昭和39年1月27日 北海タイムス

春光若葉など優勝 子供会対抗かるた大会

“乙女の姿しばしとどめん”“ハイッ”と元気の良い声をひびかせ第2回子供会地区対抗かるた大会が26日午前9時から労働会館で行われた。出場はざっと30チーム90人で3会場、8シートに分れ気合するどく熱戦をくりひろげた。読み手と審判をつとめた旭川かるたクラブ員も驚く腕前の者もあり、にぎやかな会場風景、松の内のようなムードがただよっていた。成績次の通り

【小中学生の部】①春光西若葉 ②近文若葉 ③大成清光

【高校勤労青少年男子】①パルプさくら ②春光東風の子 ③大有青空

【高校勤労青少年女子】①春光西ひばり ②新旭川新しいすず ③大有青空

昭和39年2月11日 北海タイムス

16日旭川市長杯争奪職域かるた大会

第18回旭川市長杯争奪職域かるた大会は午前9時から旭川市東校同窓記念会館で開かれる。この大会は百人一首を愛好する市内各職域の人たちにより親ぼくを目的に開かれるもの。チームは3人編成だが旭川かるた連盟所属者の3人は認められない。申し込み先は旭川市中央公民館。

昭和39年2月13日 北海道新聞

16日市長杯争奪かるた大会

市、市中央公民館、旭川かるた連盟など共催の第18回旭川市長杯争奪職域かるた大会は16日午前9時から市内8条12丁目旭川東校同窓記念会館で開かれる。

昭和39年2月15日 北海道新聞

催しもの 日曜 【第18回旭川市長杯争奪職域かるた大会】午前9時から旭川東校同窓記念会館。1チーム3人編成で会費は300円。15日まで市中央公民館で受け付けている。

昭和39年2月15日 北海タイムス
高松宮御観覧記念全道選抜下の句かるた大会

【東旭川】高松宮御観覧記念第9回全道下の句かるた大会が23日午前11時から東旭川町旭山ヘルスセンターで行われる。会費は1チーム900円(1食つき)出場希望チームは会費を添え20日迄主催者の赤翼クラブに申し込むとよい。競技方法はトーナメントで1位から4位まで入賞、5位から8位まで敢闘賞が贈られる

昭和39年2月17日 北海道新聞
タタミ激しくたいて熱戦 市長杯争奪かるた大会

東校同窓会館では朝から“ハイッ””ハイッ”と威勢のよい気合が響き、マチの人の足をとめた。第18回市長杯争奪職域かるた大会に参加した18チーム54人の選手は、34畳敷きほどの会場いっぱいに散って大熱戦。なかにはシャツ1枚になつたり、白いハチマキ姿の選手もあらわれタタミを激しく叩いてまるで戦場のよう。午後5時過ぎまでかけ声の応援が続き結局国策パルプAチームが市長杯を獲得、菅原印刷、安田生命チームが入賞した。

昭和39年2月17日 北海タイムス
国策パルプAが優勝 市長杯争奪職域かるた大会

市中央公民館主催の旭川市長杯争奪職域かるた大会は、16日朝9時から旭東高同窓会館で開かれたが、成績次のとおり ①国策パルプA(薄葉、坂上、斎藤) ②菅原印刷 ③安田生命

昭和39年2月23日 北海タイムス
第9回高松宮御観覧記念全道下の句かるた大会 (午前11時) 東旭川町ヘルスセンター

昭和39年2月24日 北海道新聞
火花散らして 下の句かるた大会 30チームが腕競う

北海道名物の一つ”下の句かるた大会”の全道大会が23日午前11時から、東旭川町のヘルスセンターで行われた。これは第9回高松宮御観覧記念全道下の句かるた大会で、参加したのは、小樽室蘭、紋別それに地元の旭川などから30チーム90人。いずれも各地区の勝ち抜いてきたベテランばかり。最年長の旭川の土建業上居巽さん(65)を始め選手達は皆元気いっぱい、朗々と響く読み手の声につれて”ハイッ”と勢いよくフダを飛ばす手付きも、時間と共に熱が籠って激しい闘志が漲り、会場は熱気がムンムンとするほど立ち込めたが、決勝戦は夜遅くまで続けられた。

昭和40年1月10日 北海道新聞
三面鏡

慈恵院は、9日正午から新春カルタ会を開いたが、初の試みとあって、カルタをとる者、声援するもの、ともにハッスルしての割れるような騒ぎだった。この日、毛布を敷いた食堂ホールの会場で3時間にわたって火の出るような熱戦を繰り広げたのは、おじいさん、おばあさん達、元気な声で『ハイッ』と札を飛ばし、1枚ごとに拍手のうず。結局吉田ふみさん(70)吉田ミヨさん(67)と職員の川谷豊さん(38)の3人が組んだE組が見事優勝。近所で食堂を経営している茂泉正之さん寄贈の賞品が1位から7位までにそれぞれ手渡されたが、全員若いころに返ったようにいつまでも笑い声が絶えなかった。

昭和40年1月10日 北海道新聞
会と催し 北海道かるた祭(正午)護国神社

**かるた歴は30年 北海道かるた開き祭の運営委員長
菅原 勝さん(44)**

10日護国神社で行われる北海道かるた開き祭の運営委員長を3年連続勤める事になった。この催しはカルタの最初の句『秋の田の刈り穂のいおの・』と読んだ天智天皇をお祀りしている近江神宮が、毎年お正月にかるた開きを行っており、以前近江神宮にお勧めされていた藤枝護国神社宮司が、北海道のかるた開きとして8年前からこの催しを行う様になったもの。当日はかるた開き祭りのあと近江神宮からの名人位認証式。これら名人の初手合せ、そして祝賀会が行われる。これら一連の行事を運営する最高責任者が菅原さんというわけ。菅原さんのカルタ歴は満30年、選手歴は22年におよぶ。名誉名人位を贈られている。『本道のかるたは明治中期から行われるようになったが現在の下の句かるたには、それなりの歴史があります。旭川のクラブは30人だが、実際家庭でかるたを楽しむ人は多く、それらの人にカルタの持ち味や歴史を知つて頂き、正しく行ってもらうことを願うものです』という。趣味はかるたのほか釣りにも目がない。本業は6の14の印章店。

昭和40年1月12日 北海タイムス

慈恵院で新年かるた会 若い者にまだ負けぬ 賞品横目にみんな真剣

お年寄りに新年の遊びで楽しんでもらおうと、九日午後旭川市立慈恵院で新年かるた会が行われた。日ごろは囲碁などで静かに過ごしているお年寄りだが、まだ若い者には負けないさ、と50人も参加。8組に分かれて熱戦を繰り広げた。『三笠の山に出で・』『ハイイ』と読み札の声が消える前に、さっと札をはねあげる。花咲町の食堂から贈られた慰問賞品を横目に見ながら、みんな真剣な表情。『これはわしの札だ』『いやわたしの』と1枚の札を取り合うなど、久し振りのかかるた会にみんな大はしゃぎ。昔とったきねづかというだけあって、札をはねる手付きもあざやかなもの。職員もおとしよりの中に交じって競ったが激しい勢いにタジタジ。夕方まで楽しいひと時を過ごした。

昭和40年1月13日 北海タイムス

スピードと礼節 北海道かるた開きから

10日北海道護国神社で古式に則った北海道かるた開きが催された。本院は近江神宮になっているが、ここにいた藤枝さんが護国神社の宮司として赴任。北海道かるた本院を同神社に置いた昭和35年から、この儀式が行われるようになったもの。小倉百人一首は鎌倉時代、いまから約750年前の歌人藤原定家が、天智天皇の時代から順徳天皇に至る約540年間に歌人として名の高かった百人を選びそれぞれの歌人から一首を選んでしるしたものといわれている。定家は当時住んでいた京都上嵯峨の小倉山ろく、小倉山荘で障子色紙にこの歌を書いたが、それが今日まで語りつがれてきたわけ。この小倉百人一首は本州各地の場合上の句から読み、下の句の紙札をとるのが普通だが本道の場合は下の句を読み下の句の木札をとるのが普通。本道の場合未開の開拓地に入植、あるいは、土木工事、漁場で働く人が多かったため北国の風土に似て気性が荒く、上下を読むのがまどろっこしいため勢い下の句だけとなってしまったという。北海道かるた振興会(会長佐藤門司氏、旭川)は、このかるたを室内競技、室内スポーツとして、正しく広く普及するため、毎年各種競技を行っている。このかるた競技は、本道の場合前の下の句の余韻で敏しような行動で札をとるもので、いわば札とりのスピード競技。旭川地方カルタ連盟は『スポーツ精神に徹し、礼儀正しく行動する』ことを第一条件に各項の競技規定を作つて技をみがき、4年前から毎年正月には人格、競技、指導性に優れた人を選び名人位を贈っている。この名人位は、近江神宮、護国神社の両社から認められなければなれずカルタでは最高の栄誉。市内では上居異(9の18) 前川重秋(新町6ノ3) 山本実(パルプ町旭誠寮) 兼平千代治(宮下20) 平間清治(3の12) 河合秀昭(旭町1の8) 故上居殖(9の18) 故増田豊司(8の16)の8人。かるた祭は本殿で藤枝宮司の祝詞奏上のあと、かるた開き儀式、玉串奉典、名人位認証式と記念品の贈呈が行われた。続いて北海道名人位奉納試合を開き名人技を競つたあと祝賀会を開いて解散した。

昭和40年1月16日 北海タイムス

声高く「ハイイ」 春光西地区子供会 元気にかるた大会

春光西地区こどもかるた大会が17日午前9時から北鎮小で開かれた。1チーム3人で、参加したのは、小中生の部7、高校、勤労青少年の部6、高校女子の部2の合わせて15チーム。本道独特の下の句かるただが、読み手が余韻を残して次の句に移るやいなや『ハイイ』の声も高く木の札をはじきとばし、この正月にじゅうぶん修練したところをみせていた。この日勝ち抜いたチームは下旬に開かれる全市子供会かるた大会に出場する。

昭和40年1月23日 北海道新聞

催しもの

土)『第3回子供会対抗かるた大会』午前9時から労働会館。市、市教委などの主催。小中学生の部、高校勤労青少年の部男子、同女子の3部に地区予選を通過した27チーム81人が参加百人一首に腕を競う。

昭和40年1月24日 北海タイムス

きょう子供会地区対抗かるた大会

旭川市青少協恒例のかかるた大会は、24日午前9時から労働会館で開かれる。この大会には全市の子供会から地区代表チームが出場して栄誉を競う

昭和40年1月25日 北海道新聞

小中生は若葉(大有地区)優勝 子供会地区対抗かるた

『富士の高ねに雪は降りつつ』"ハイイ"24日旭川市労働会館で開かれた第3回子供会地区対抗かるた大会の会場から元気いっぱいの声が響く。このかるた大会は市、市教委が主催するもので参加は市内各地区の子供会29チーム。小中学生の部、高校勤労青少年の男子の部、同女子の部

に分かれ8コートで自慢の腕を振るつた。まず予選リーグを行ない、ついで決勝トーナメントで各部の優勝を争つたが、決勝戦ともなれば競技者も応援側も一段と熱がこもり、一句ごとに割れるような歓声が会場にこだましていた。成績次のとおり

◇小中学生の部①若葉(大有地区) ②旭(旭正地区) ③トキワ北(中央地区)

◇高校勤労青少年の部男子①若葉(春光西地区) ②さくら(パルプ地区) ③近文(近文地区)

◇高校勤労青少年の部女子①若葉(大有地区) ②ひばり(春光西地区) ③七ノ七(中央地区)

昭和40年1月25日 北海タイムス

一枚ごとに力こもる 名誉かけ熱戦展開 子供会地区対抗かるた大会

旭川市、教委など主催の子供会地区対抗かるた大会は、24日午前9時から労働会館で催された。冬のレクリエーションを楽しむこの大会は、ことしが3回目の行事。市内各地区から30チームが参加。小中学生、高校勤労青少年の男女二部に分かれ予選リーグを勝ち抜いたチームが決勝トーナメントに進出するという試合法。美しく流れる読み手の声とともに目の前のかるたにすばやく手が伸び、一枚ごとに力がはいり会場は元気な声がいっぱい。子供会の名誉をかけ、熱戦を展開した。成績次の通り

【小中学生の部】①大有“若草”(鈴木恵美子、近藤裕二、佐藤英明) ②旭正“旭”(石坂勉、石坂芳治、石坂実) ③中央“トキワ北”(佐藤幸治、伊藤明夫、佐藤雅博)

【高校勤労青少年の部男子】①春光西“若葉”(岩佐茂、中島啓一、月坂力) ②パルプさくら(松下憲一、佐々木守、小野寺茂) ③近文“近文”(谷口浩造、穴口博、荒川修)

▽女子①大有“若草”(堀川幸子、上野真知子、堀川陽子) ②春光西“ひばり”(高松和代、中山百合子、佐藤洋子) ③中央“七ノ七”(高原、工藤、善方)

昭和40年1月28日 北海タイムス

市長杯争奪職域かるた大会 申し込みは30日まで

第19回旭川市長杯争奪職域対抗かるた大会が市、市教委、旭川かるた連盟の主催で、31日午前9時から旭川東校同窓会館(6の11)で開かれる。かるた(百人一首)を愛好する各職域の人たちが、市長杯の争奪を通じて親ぼくを深め、かるたの室内レクリエーションとしての普及を図ろうというもの。出場資格は市内の各職場または職種の同じ人たちで編成したチーム数に制限はない。チームは男女を問わず3人編成(ただしかるた連盟会員は1チームに2人まで認める)参加者は1チーム300円で申し込みと同時に納入のこと。組合せ競技方法は、大会当日行われる主将会議で決め、ルールは旭川かるた連盟規約による。申し込みは30日までに常磐公園内旭川中央公民館(電話2-4172)か旭川かるた連盟(2-3034 河合宅)に申し込むとよい。

昭和40年1月30日 北海タイムス

公民館中央分館かるた大会

(午後1時) 東旭川公民館

昭和40年1月30日 北海道新聞

職域対抗かるた大会 日曜

(土曜) 【上川総支部青婦部カルタ大会】

全道庁労組上川支部各青婦部から13チーム、39人が参加。午後1時から常盤会館で開く

(日曜) 【第19回市長杯争奪職域対抗かるた大会】

市、市教委、旭川かるた連盟主催で午前9時から東校同窓会館で開かれる。参加希望者は30日までに公民館(2-4172)か、旭川かるた連盟(2-3034河合宅)に申し込むとよい

昭和40年2月1日 北海道新聞

職域カルタ大会成績

第19回市長杯争奪職域対抗かるた大会は14チーム、42人が参加して1月31日午前9時から旭川東校同窓会館で開かれ、川田木工チームが初優勝した。入賞次のとおり

①川田木工(松岡、山本、山口) ②旭川市役所

昭和40年3月25日 北海タイムス

全道かるた大会の組み合わせ決まる

第10回全道かるた大会が27日午後8時から東鷹栖村ニュー旭川温泉で繰り広げられるが24日の抽選会で出場34チームの組み合せが上記のとおり決った。(トーナメント表省略)

北海道式 百人一首 由来

これから時期に盛んになる娯楽として百人一首のかかるたがある。いまでは新しい室内遊戯やテレビに押されて、戦前にくらべれば盛んではないが、それでも公民館などの主催でかるた大会をやっている市町村もあるし、職場での大会も見受けられる。ところで、北海道の百人一首は、取り札に木札を使う、下の句だけしか読まない、対戦のようすが相当荒っぽい、といったところに特色があるが”北海道式百人一首”はどうして成立したかその由来を探ってみよう。

山形、石川、島根県でも木札

百人一首の取り札に木札を使うところは北海道だけではない。木札でやっている地方がかなりある。山形、秋田両県では、木札の方が優勢だし、島根県でも昭和の初めころまでは能登半島の漁村で木札が使われていた。また、島根県出身の俳人、天野宗軒さんの話では、大正7、8年以前には島根、鳥取両県でもいなかでは、木札が普通だったとのことで、厚紙製の札はあるにはあったが、都市でしか使われなかつた。そして、紙の札はふちとりや裏面に金泥や細かい金銀泊を散らした高級品が多く、官吏や商家など、上流家庭にしか普及していなかつたという。こういう例をみると、木札は裏日本一帯の民族文化で、これが移住者とともに北海道に渡ってきたもので、決して北海道独特のものではないようだ。

道内では現在製造されない

いま道内では、1シーズンに2万5千～3万組の百人一首が売れるが、この製造元は福島県の会津若松地方で、道内では全然製造されていない。戦前は、道内各地方で秋に仕事の終わった大工たちがアルバイトに板をけずり、土地の能筆家が一枚一枚手書きで札を作っていたし、玩具業者がベニヤ板にゴム版印刷で製造したこともあったが、戦後姿を消した。需要減少や材料になるホウ材の減少にもよるが、やはり会津産のものが本場のものとみなされたらしい。なお、道産のベニヤ板札は、札の音が悪いとして、評判はよくなかった。

競技法の移入説は根拠薄い

”北海道式百人一首”的競技法の起源に関しては、資料も説もなく、わからないことばかりだ。郷土史の更科源蔵さん、富樫曾壱郎さんらにたずねても『私たちが子供のころから、いまのようなやり方だった』といい、郷土史資料にも手がかりはないとのこと。ただ、『北方文芸』主宰の辰木九門さんは『私は石川県の漁村の出だが、幼いとき、漁場の若い衆らが下の句だけで百人一首をやっているのを見たことがある』と、札と同じく競技法も裏日本からの移入ではないか、という説を述べているが、同じ石川県出身の釧路市助役の野坂作五郎さんは『むこうのやり方はちゃんと上の句も読んでいた』と否定的だし、島根、鳥取地方、山形県でも上の句を読むというから、移入説の根拠はちょっと弱いようだ。

勝負への関心しかなかった

藤原定家が選んだ小倉百人一首は、長い間宮廷の女房たちの遊びである貝合わせに利用されていたが、江戸時代の初期ごろからかるたに取り入れられ、吉原など遊郭で流行、一般家庭での遊びとして広まったのは、明治20年代の後半からだ。尾崎紅葉の『金色夜叉』に描かれているように、男女青年が大っぴらに手を触れ合える遊びとして、かるた会のふんいきはムードがあり、王朝文化の流れをくむ優雅なものだった。それが一首の歌をちょん切って上半分を投げ捨て、ラグビーかアメリカンフットボールのような迫力で札を奪い合う興奮したふんいきのゲームになった過程を想像するとき、辰木さんのいうことも一概に無視できない。和歌の要素も、王朝文化への関心もない漁村の若者たちが都市での流行をまねて百人一首をするとき、その心の底には花札や丁半ばくちと同じように、勝負に対する関心しかなかったことは容易に考えられる。勝ち負けだけを考えるなら、てつとり早く下の句だけで競技すればよいのだ。

賞金めあてで多数が集まる

この想像はそのまま北海道での百人一首の起源に結びつけることができる。明治中期から末期にかけての北海道各地の社会構成は、石川県の漁村とそう違いはなかったはず。むしろ、一旗あげることをめざして移住してきた人たちばかりだから、ばくち打ち的な気風は北海道の方が強かったに違いない。昭和の初めごろ、よくかるた大会に参加したことのある富樫曾壱郎さんは『大会には、賞金めあてのセミプロが多数集まった。3人1チームで参加料は1円50銭か2円、優勝すれば賞金は20円から30円出たから、一種のばくちだった。それだけに競技は真剣で緊張したふんいきで行われ、審判の判定に抗議して、1時間も1時間半ももめることはしばしばあつた』と回顧している。また、『かるた取りは、よその家でかるたをやっている場へ上がり込み対戦を申し込むことが自由にできる風習だった。凍り付いた雪道を、3人1組になった一見それとわかる男たちが左右の家に耳をたてながらうろついているようすは、道場破りをめざす浪人かなんかのような感じだった』といっている。本州ではムードのある花やいだふんいきの室内遊戯として発達していった百人一首が、北海道では殺氣のみなぎる勝負ごととして受け継がれてきた事情を物語るものだ。

昭和41年1月6日 北海道新聞

カルタなど楽しむ 農業学園の新年カルタ大会

【東神楽】東神楽町の農業学園で新年レクリエーション大会が5日9時から町中央公民館で開かれた。この日山形学園長(町長)や宮本農協組合長も出席、約100人の青少年に『気持ちも新しく明るい農村建設に励んでほしい』と激励。さっそくレクリエーションに移り、風船つき似顔絵コンクール、百人一首などたのしいゲームに時のすぎのものも忘れていた。会場は晴れ着姿の若い女性や日焼けした若者達の活気にあふれ正月気分は最高潮。総合成績で"クタビレ賞"や"残念賞"を手に和やかなレクリエーションをたのんだ。

昭和41年1月6日 北海タイムス

あす東栄子供会かるた会

東栄子供会(東4の3)では、7日9時から同町内の左官会館で新年子供かるた大会を行う。入賞者は昨年、廃品回収などで得たお金で賞品が出される。

昭和41年1月7日 北海タイムス

新春を飾る"北海道かるた会"

土】午後1時から北海道護国神社で"北海道かるた祭"が開かれる。全日本歌留多本院、近江神宮宮司平田寛一さん、全道のかるた名人が参加し古典に則った儀式、同祭奉納試合などが行われる。新春を飾る旭川の名物行事ともいえよう。

昭和41年1月9日 北海道新聞

名人たちが札のはじき合い 新春恒例のかるた開き

新春恒例の北海道かるた開きが、8日午後1時から護国神社で行われた。本殿で祝詞奏上やミコのかるたとりの儀式が神前で披露されたあと、社務所で全道から集まつた上居異名人(旭川)ら30人がかるたの初試合。3人1組にわかれ向かい合って陣どり、読み手が『我が衣では・・』と名調子で読み始めたかと思うと、互に激しい札のはじき合い。さすが名人揃いだけにまわりで見守る北海道かるた振興会会长佐藤門司さんの会員もその素早さに目を見張っていた。このかるた開きは、滋賀県の近江神宮で正月に行われているのに習い、北海道流下の句だけの百人一首に合わせて、道かるた本院の護国神社が7年前から始めている。

昭和41年1月10日 北海タイムス

『ハイ』の声も高く 大町地区子供会でかるた大会開く

大町地区子供会かるた大会が6日午後1時から大町小で開かれた。1チーム3人で、参加したのは、小中学生の部4、高校、勤労青少年の部4で合わせて8チーム。本道独特の下の句かるただが読み手が余韻を残して次の句に移るやいなや『ハイ』の声も高く木の札をはじきとばし、これまでにじゅうぶん修練したところをみせていた。この日勝ち抜いたチームは下旬に開かれる全市子供かるた大会に出場する。

昭和41年1月12日 北海タイムス

新年カルタ祭り 古式ゆかしくハイ!! 1月行事のトップ 青少年に人気高まる

お正月の楽しみといえば、むかしばは"カルタ"と決っていた。独特の歌まわしで"乙女の姿しばしとどめん"といった読み手の声は正月ともなれば、どこの家からも流れ出ていたものだった。世の移り変わりにつれて昔のように百人一首は、盛んでなくなったかも知れないが、それでも北海道のお正月にかかせない楽しみの一つに違いない。このカルタ、北海道の本院は北海道護国神社におかれ、この本院がおかれた昭和35年から同社では毎年"カルタ祭"を行っている。ことしは8日午後1時から全道の関係者が集まって開かれた。この祭りは北海道カルタ振興会佐藤門司会長が協賛して開かれるもので、全日本歌留多本院は近江神宮で、同宮で徳倉の昔宮人達が宮中で行ってきたカルタ取りの儀式を、そのままに伝えるみやびやかで、それでいて壯厳な神式で、北海道護国神社の場合もそれと全く同じ様式で行われた。小倉百人一首は今から750年前、鎌倉時代に藤原定家が天智天皇の時代から順徳天皇に至る540年にわたる間の名高い人の歌を百首選んだ。本州では紙札を使い、上の句を読んで下の句をとるというやり方だが、本道の場合は板札を使い下の句を読んで下の句をとるといった独特のカルタ競技を生みだし北海道のお正月の代表的な風物詩となっている。北海道カルタ振興会ではこれを室内競技、室内スポーツとして正しく普及しようと毎年このカルタ祭に合わせて奉納試合を行っているが、それらの成績と人格『スポーツ精神に徹し、礼儀正しく行動すること』などに合致した人に名人位を贈っている。ことしは残念ながら名人位を贈られた人はいなかつたが、市内には上居異(9の18)前川重秋(新町6の3) 山本実(パルプ町旭誠寮) 兼平千代治(宮下20) 平間清治(3の12) 河合秀昭(旭町1の8)さんらの名人がおり、既に故人となった上居殖、増田豊司さんなどがいる。会長

の佐藤さんは『カルタは冬の北海道でも楽しみなものです。これを健全な室内競技として大いに発展させたいですね』と語っている。昔はどちらかといえば大人が楽しむゲームだったが、いまは青少年のなかでも広まっている。市青協の年中行事のなかには"青少年カルタ大会"が1月行事のトップになっていて今それぞれの地区で予選が展開されており、やがて地区から選ばれた代表選手によって全市大会も開かれる。これらの選手たちからも将来は晴れの"名人位"を獲得する人も出てくるだろう。1月8日、同社で行われた儀式は莊重そのもの。また奉納試合での一瞬を争う勝負はスピード感にあふれ迫力のあるものだった。このような行事のなかに日本のお正月、北海道のお正月をしみじみ感じさせていた。

昭和41年1月15日 北海道新聞

年も忘れハッスル 静和園でニコニコかるた

老人施設の道立清和園で14日午後1時から新春ニコニコかるた大会が開かれた。『いつもニコニコ元気』『花づくり、えがおでニッコリ賞を受け』など、おとしよりが毎月1回開かれる"ニコニコ週間"にちなんで考えた標語をかるたにしたもので同園ご自慢のひとつ。この1月の誕生会とかねての大会で、おとしよりは勇ましいハチ巻姿で大張り切り。おじいさんチームとおばあさんチームに分かれて大熱戦、札の取り合いのすえ、ジャンケンで勝負で決めるという場面もあり、おとしよりは寒さも忘れてカルタ取りに夢中になっていた。

昭和41年1月17日 北海タイムス

月曜対談 カるたの名人 上居巽氏

日本人でかるた(歌留多)を取った経験がないという人は、あまりおるまい。大げさに言えば、この民族的郷愁が近年トンとわれわれの生活から遠ざかってしまったことを嘆いているのが、かるたの名人上居さんである。この日、上居家の応接間には、長男の司さん、次男の力さんを初め、旭川のただ一つのクラブ組織である旭川赤翼クラブの会長河合秀昭さん(名人)副会長の滝田左右平さん、幹事の茶畠金市さんが加わり、元老上居さんの補佐役をつとめながら"健全な冬の室内競技"であるかるたの功徳を盛んに力説した。チームワークの見事なこと!!『乙女の姿しばしとどめん』ばかりをねらった少年時代(マセテいました)をゆくりなく思い起したことだった。

対談集は5ページ1面のため省略

昭和41年1月19日 北海タイムス

合同酒精でかるた大会開く

合同酒精は15日午後5時から同社内でかるた大会をおこなった。同社員18人6チームが参加したが、ふぶきのため1チーム2試合ずつ行って同7時ころおわった。

昭和41年1月20日 北海タイムス

昔とったキネヅカ カると大会で腕前披露 慈恵院

慈恵院恒例のかるた大会は18日午後同院の食堂で開かれた。老人93人うち有志18人が参加、6チームに分かれてかるた大会を楽しんだ。本道独特の下の句かるたで職員の和泉さんが『三笠の山にいでし月かも』『ながながし夜を』読み上げると『ハイ』『ハイ』とおじいさん、おばあさんの手がスルスルとかるたの上に伸び、"昔とったキネヅカ"を披露した。大会で入賞した6人には手ぬぐい、石けんなどが贈られた。

小中生で若葉 春光西地区子供会かるた大会の成績

春光西地区子供会かるた大会はこのほど北鎮小で85人が参加して開かれたが成績次のとおり
△小中学生 ①若葉 ②白樺 △高校男子 ①若葉 ②白鳩 △同女子 ①ひばり

昭和41年1月20日 北海タイムス

23日に子供会地区対抗かるた大会

第4回子供会地区対抗かるた大会は市、市教委の共催で23日午前9時から労働会館で開かれる。地区協議会での予選勝者が出場資格者で、種目は①小中学校の部②高校の男子の部と女子の部。参加料無料。

昭和41年1月22日 北海タイムス

30日職域かるた大会

市、市教委、旭川歌留多連盟などの主催の第20回市長杯争奪職域対抗かるた大会が30日午前9時から北海道護国神社で開かれる。出場資格は、市内の各職場または職種の同じ人によって編成したチームであること。同職域からの参加チーム数に制限なく1チームは3人、参加料は1チーム300円で、出場希望チームは27日までに市中央公民館あて参加料を添えて申し込むこと。

昭和41年1月22日 北海道新聞

ウデ競う160人 日 子供会地区対抗カルタ大会

『第4回市子供会地区対抗カルタ大会』午前9時から市労働会館。市、市教委、市青少年対策保護育成協議会の主催。各地区予選を勝ち抜いてきた小中学生の部13チーム、高校勤労青少年の部男子12チーム、同女子7チーム、合わせて96人が参加、市長杯などをかけてウデを競う。

昭和41年1月24日 北海道新聞

子供対抗かるたかけ声も勇ましく

○午前9時から労働会館で開かれた第4回子供会地区対抗かるた大会は、32チーム約96人が思い思いのチーム名をつけて参加。大会議室のコンクリートの床に敷いた畳の上で、小中学生の部、高校・勤労青少年の部(男女別)に分かれて開始、朗々とした読み手の声に『ハイッ』『ソレッ』と板かるたをはじき飛ばし、なかなか勇ましくにぎやかだった。成績次のとおり

▽小中学生の部①スズラン(東区) ②あさひ(旭正) ③北常盤(中央)

▽高校・勤労青少年の部男子 ①若葉(春光西) ②桜(パルプ) ③ききょう(近文)

▽同女子の部①春光ひばり(春光西) ②若草(大有) ③あすなろ(向陵)

昭和41年1月31日 北海道新聞

市長杯に熱戦 職域対抗かるた大会 土建チームが優勝

第20回市長杯争奪職域対抗かるた大会が、30日朝から北海道護国神社の儀式室でにぎやかに行われた。このかるた大会は健全なレクリエーションとして社会教育の立場から旭川市、旭川市教委、旭川かるた連盟などが共催して毎年行っているもの。ことしは市内の木工、建設、自転車、洋服、パルプなど各職場から3人づつ12チームが参加。かるた連盟の役員が読み上げるごとに『ハイッ』と選手たちの手がすばやく飛びかい、札が散るなど激しい試合の連続に見物の藤枝宮司や同僚、家族たちも盛んな声援。結局、優勝旗、市長杯は、土建チームの頭上に輝き、2位昭和木材、3位翼建設という成績だった

昭和41年1月31日 北海タイムス

土建チームが優勝 市長杯争奪職域対抗かるた大会 各代表が熱戦

第20回市長杯争奪職域対抗かるた大会は30日午前9時半から北海道護国神社で行われた。昨年優勝した川田木工など12チームが参加、熱戦を繰り広げた。土建チームが決勝で昭和木材チームを破り、5回目の優勝を飾り、晴れの市長杯をにぎった。成績次のとおり

①土建(高橋諒、上居力、富山和昭) ②昭和木材 ③翼建設

今日の人 市長杯争奪かるた大会で優勝した土建チームのキャプテン

かるた歴20年というベテラン。今まで100回以上かるた大会に参加。そのうち30回ぐらいは優勝しているという。小柄だが目がなかなか鋭い。この大会は、東光、洋服、熊坂工芸、昭和木材の4チームを破り通算5回目の優勝をとげたが『チームワークがよかつたのが勝因』と上居、富山両同僚の活躍ぶりも忘れない。『これから全道的な大会が続くが、今年最初の大会で優勝できたのは縁起がいい』と早くも全道制覇へのファイトを燃やしている。かるたが上手くなるには、①練習を積む ②チームワーク ③大会の場数をふむ ④勘をみがく ⑤精神統一 が大切というものが高橋さんの持論だ。今回は寄せ集めのチームだったが、2,3日の練習だけで呼吸もピッタリ。それだけ高橋さんのリーダーぶりが見事だったわけ。東旭川生まれ。土建の"高橋組"を経営。14,5人の若者を使っている。マージャン、碁など勝負事はなんでも強く『かるたではまだ全道を暴れ回るつもり』と鼻息も荒い。2の18で両親、奥さん、子供3人の7人暮らし。

昭和41年2月11日 北海タイムス

春光西地区でかるた大会

春光西地区のかるた大会は13日午前9時から4区町内会館で開かれる。

昭和41年2月19日 北海タイムス

会と催し

19日午後8時から旭川温泉で高松宮ご観覧記念第11回全道下の句かるた大会が行われる。

昭和42年1月7日 北海道新聞

催し 8日日曜日午前9時から春光児童会館で末広地区子供かるた大会が開かれる。

【北海道かるた開き祭】8日日曜日午前11時から北海道護国神社で開かれる。札幌、小樽、三笠、岩見沢、名寄などからも選手が参加。午後1時からは全道選抜かるた大会も開き、初手手合せを行う。